



綠樹会 会報

発行／兵庫医科大学同窓会緑樹会・発行人／石藏礼一〒663-8501西宮市武庫川町1-1・TEL0798-45-6448 FAX0798-45-6449



第42回兵庫医科大学同窓会緑樹会総会

目 次

1. 会長より会員の皆様へ	3
速報 橋俊哉新主任教授就任	4
2. 総会報告	5
3. 教授・病院長就任のご挨拶	8
4. 准教授・講師就任のご挨拶	19
5. 兵庫医科大学副学長就任に際して	23
6. 兵庫医大教授に就任された先生から緑樹会会員へメッセージ	24
7. 兵庫医科大学病院病院長就任に際して	28
8. 厚生労働大臣表彰受賞に際して	29
9. 国際学会(ISAKOS)での学術賞(John J. Joyce Award)受賞報告	30
10. 緑樹会学術奨励賞	31
11. 支部たより	33
12. 同期会たより	41
13. OB会たより	43
14. Circle of H.C.M.	48
15. 兵医のこころを後輩に	51
16. アスリートを支える	54
17. 緑樹会から平成31年卒業生へスクラブ贈呈	56
18. 医局紹介	57
19. 研修医たより	61
20. 大学院研究日記	62
21. 働き方改革への取り組み	63
22. 新規開業医紹介	65
23. シンボルマークデザイナーから緑樹会会員へメッセージ	67
24. 鳴尾浜グラウンドたより	68
25. 揭示版	70
26. 定期理事会報告	73
27. 理事・支部会一覧	74
事務局より	76
編集後記	88

1. 会長より会員の皆様へ



緑樹会会長

石 藏 礼 一 (昭和57年卒業)

残暑も日ごとに和らぎ、初秋の季節となりました。皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

私事ですが、これまで兵庫医科大学放射線科に勤務し、大学内から緑樹会の運営を行ってまいりましたが、本年6月末に退職し7月から新たな勤務地である神戸市立医療センター中央市民病院放射線診断科にて勤務しております。今後は、大学外から同窓会活動や運営について考えて行きたいと思います。

同窓会活動も活発になってきております。同窓会理事会報告書・支部会活動・クラブOB・OG会活動などは、緑樹会ホームページで随時更新しております。ぜひ緑樹会ホームページをご覧ください。また、皆様が同期会やクラブOB・OG会、緑樹会支部会を開催されましたら緑樹会ホームページに掲載させて頂きますので、ぜひ写真や開催のご報告をメールでお寄せ下さい。

昨年度の大きな事業は下記3点です。

1. 皆様もご存知の通り、緑樹会はシンボルマークを作成しました。シンボルマークの活用としまして4年生の白衣授与式用白衣の右肩部分にシンボルマークを刺繡しました。さらに昨年度卒業生に緑樹会シンボルマークをつけたスクラップを贈呈しました。同窓会に対しての帰属愛につながっていけばと思って

おります。

2. 緑樹会総会で可決された一般社団法人化の準備を進めています。法人化することで、緑樹会の社会的地位の向上と今後さらなる緑樹会会員の皆様へのベネフィットになるよう活動をして参ります。
3. 緑樹会会員の連絡網の整備化です。現在、緑樹会会員の皆様の連絡先の登録は約88%、メールアドレスの登録は30%です。そこで連絡網の整備化として各学年代表(連絡係)を皆様にお願いしております。各学年代表(連絡係)の希望者がおられましたら、同窓会事務局までお知らせください。同窓会(同期会)やクラブOB・OG会を開催される時の連絡先などに同窓会事務局はご協力させて頂きます。

最後になりますが、同窓会活動は皆様の年会費で成り立っています。納入率は学年によって7%~74%の開きがあります。かなり温度差があるようです。令和3年には緑樹会名簿作成を予定しております。年会費未納入の方には名簿をお届けすることができません。ご自身の納入状況が不明な方は、同窓会事務局にお問い合わせください。同窓生の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

祝 橘 俊哉 新主任教授 就任

整形外科学

助教 中山 寛 (平成14年卒業)

助教 辻 翔太郎 (平成23年卒業)

2019年7月25日、兵庫医科大学 整形外科教室に歓喜の報告が舞い降りました。

それは兵庫医科大学の同窓であり、整形外科学教室の同門を代表して出馬していた橘俊哉先生が新主任教授に就任したことです。そしてその日から数日間は医局にお祝いの電話、メール、祝花のお届けや訪問客が続き秘書さんは嬉しい悲鳴を上げていました。

われわれ整形外科教室は設立以来同門、同窓からの主任教授はおらず、今回の教授選は悲願を達成するため吉矢晋一前主任教授を中心に医局員一同まとまり、これまで取り組んできました。しかし振り返るとこの悲願は我々の力だけではなし得る事が不可能であり、応援して頂いた教授会、理事会の先生方、整形外科同門会の皆様、そして何より緑樹会 学術奨励賞を授与頂き大きな後押しをして下さった緑樹会の皆様のお力があってこそと考えております。今後、我々整形外科は、橘俊哉主任教授のもと同窓であることを誇りにして、新たな気持ちで臨床、研究、教育に邁進していく所存であります。

緑樹会の皆様、今後とも整形外科をよろしくお願い申し上げます。



2. 総会報告

第42回兵庫医科大学同窓会緑樹会総会

日時：令和元年7月6日（土）15時～18時

場所：兵庫医科大学「9-1講義室」9号館5階

■総会

1. 議長・議事録署名人選出
2. 会計報告・事業報告
 - ① 平成30年度事業報告 石藏 礼一 緑樹会会長
 - ② 令和元年度事業計画 石藏 礼一 緑樹会会長
 - ③ 平成30年度会計監査報告 深田 正代 緑樹会監事
 - ④ 令和元年度予算案 田村 和朗 緑樹会常任理事



羽竹勝彦先生

■講演会

◇企画講演

羽竹 勝彦 奈良県立医科大学法医学教授



石藏礼一先生



高雄由美子先生

◇記念講演

石藏 礼一 放射線医学教授



大黒正志先生

高雄由美子 ペインクリニック部教授



松阪諭先生

大黒 正志 金沢医科大学高齢医学科主任教授

松阪 諭 筑波大学医学医療系

臨床研究地域イノベーション学教授

■第2回兵庫医科大学緑樹会学術奨励賞表彰

橋 俊哉 整形外科学講師



都築 建三 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学准教授

大黒正志先生

■懇親会（18時～20時）

場所：10号館10Fレストランロイヤル 司会：保科幸次先生

令和元年7月6日（土）、兵庫医科大学9号館「9-1講義室」にて定期総会が行われました。児玉岳理事を議長に選出し、総会の成立が報告されました。（会員数4,235名、委任状提出会員442名・出席会員46名）

石藏礼一會長から平成30年度事業報告、令和元年度事業計画の説明が行われ、深田正代監事から平成30年度会計監査の結果、適正に処理されていることの報告がありました。次いで田村和朗常任理事から令和元年度予算案が報告され、可決承認されました。総会終了後には、緑樹会理事であり平成31年4月兵庫医科大学副学長に就任された、池内浩基先生よりお言葉をいただきました。講演会では、企画講演として羽竹勝彦先生から「孤独死の現状を考える～法医学の視点から」をテーマに興味深いご講演をいただきました。続き、教授就任者4名（石藏礼一先生、高雄由美子先生、大黒正志先生、松阪諭先生）による記念講演が行われました。総会・講演会終了後は、第2回緑樹会学術奨励賞の表彰式を執り行いました。今回の受賞者は、橋俊哉先生、都築建三先生です。二人の受賞者に緑樹会学術奨励賞選考委員長 藤盛好啓先生より賞状と記念品が贈られました。最後に校歌斉唱し、盛会裏に終了致しました。

次回は令和2年7月4日（土）に開催予定です。

緑樹会総会懇親会 報告

緑樹会常任理事
保科 幸次 (平成3年卒業)

第42回緑樹会総会に統いて、会場を10号館10階・レストランロイヤルに移し、恒例の懇親会が開催されました。新家莊平名誉理事長も元気に定刻に登場、昨年の旭日重光章叙勲と10月に700名を超える招待者を迎えて盛大に開催された退任記念会の記憶も新しい中、その後も有り余るエネルギーを高野山清浄心院・永代供養堂「永山帰堂」への天井画にぶつけられ、その完成報告と、これから兵庫医大の発展には卒業生のpowerを結集させることが絶対不可欠とエールをいただきました。統いて太城理事長から、梅田阪神新館高層階への兵庫医大・梅田キャンパスorクリニック構想の検討、そして野口光一学長から自身の任期2期目へ向けての抱負と入試制度及び卒前・卒後教育の充実に向けた改革の継続、といった力強いご挨拶を頂きました。阪上雅史病院長からは、1号館に替わる新病院計画の進捗状況報告と、同プロジェクトへ盛大に緑樹会のエネルギーを集めて欲しいとの要請を頂きました。

強靭なスピリットとその人徳で、同窓会組織の土台作りに苦心されてきた我らが緑樹会会長・石藏礼一先生は今春、放

射線科教授に昇格、統いて7月から神戸市立医療センター中央市民病院の部長就任と激動の時間を過ごしながら、引き続き新たな視点から緑樹会活動に尽力したいと述べられました。医学生の卒後研修病院としても国内屈指の施設のリーダーとなられ、大きく、新たな角度から緑樹会活動に刺激を与えてくださることと思います。

学術奨励賞授賞の橋俊哉先生(H3卒・整形外科講師)からは、主任教授に正式に就任することとなれば教室運営に粉骨碎身したい(その後、7月25日法人理事会で正式に決定!)、都築健三先生(H8卒・耳鼻科准教授)から兵庫医大卒業生として兵庫医大の為にこれからも頑張っていきたいと、それぞれエネルギーを發揮がありました。

黒田佳治副会長、中川一彦常任理事、そして企画講演の羽竹勝彦先生、記念講演の松阪諭、高尾由美子両先生から、ご自身の近況と兵医loveのコメントが繰々と続き、熱い夜がふけていきました。最近、支部会で盛り上がる各地の緑樹会会員の皆さん、来年は是非、総会・懇親会にも奮ってご参加ください!



平成30年度決算報告書

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(単位:円)

収入の部		支出の部			
科目	平成30年度 予算額	平成30年度 決算額	科目	平成30年度 予算額	平成30年度 決算額
(卒)新入会会費	400,000	160,000	人件費	3,400,000	3,048,101
年会費	9,910,000	13,628,000	法定福利費	0	0
広告費収入	1,300,000	1,630,108	職員交通費	0	0
集金事務費収入	500,000	497,450	通信費	480,000	582,244
預金利息	1,000	573	印刷費	400,000	180,539
特別収益(懇親会収入)	700,000	835,000	事務用品費	100,000	95,900
			備品費	300,000	235,656
			教授就任祝費	200,000	200,000
			慶弔費	100,000	291,660
			緑樹会学術奨励賞	100,000	100,000
			会報発行費	2,800,000	3,069,497
			名簿発行費	0	0
			涉外費	1,500,000	1,210,100
			会議費	50,000	61,433
			教育支援費	995,000	1,074,300
			収納手数料	580,000	421,061
			雑費	1,000	1,058
			シンボルマーク作成費	900,000	648,000
			特別損失(懇親会費)	250,000	265,131
収入合計(1)	12,811,000	16,751,131	支出合計(1)	12,156,000	11,484,680
前期繰越金(2)	26,403,139	26,403,139	次期繰越金(2)	27,058,139	31,669,590
合計(1)+(2)	39,214,139	43,154,270	合計(1)+(2)	39,214,139	43,154,270

令和元年度予算報告書(案)

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

(単位:円)

収入の部		支出の部			
科目	平成30年度 決算額	令和元年度 予算額	科目	平成30年度 決算額	令和元年度 予算額
(卒)新入会会費	160,000	800,000	人件費	3,048,101	2,600,000
年会費	13,628,000	10,900,000	法定福利費	0	0
広告費収入	1,630,108	1,300,000	職員交通費	0	60,000
集金事務費収入	497,450	500,000	通信費	582,244	600,000
預金利息	573	1,000	印刷費	180,539	400,000
特別収益(懇親会収入)	835,000	500,000	事務用品費	95,900	100,000
			備品費	235,656	300,000
			教授就任祝費	200,000	400,000
			慶弔費	291,660	500,000
			緑樹会学術奨励賞	100,000	100,000
			学術費	0	500,000
			会報発行費	3,069,497	3,400,000
			名簿発行費	0	0
			涉外費	1,210,100	1,500,000
			会議費	61,433	100,000
			教育支援費	1,074,300	1,500,000
			収納手数料	421,061	650,000
			雑費	1,058	10,000
			シンボルマーク作成費	648,000	0
			緑樹会グッズ作成費	0	1,200,000
			予備費	0	300,000
			特別損失(懇親会費)	265,131	300,000
収入合計(1)	16,751,131	14,001,000	支出合計(1)	11,484,680	14,520,000
前期繰越金(2)	26,403,139	31,669,590	次期繰越金(2)	31,669,590	31,150,590
合計(1)+(2)	43,154,270	45,670,590	合計(1)+(2)	43,154,270	45,670,590

3. 教授・院長就任のご挨拶



ペインクリニック部教授就任に際して

ペインクリニック部

教授 高雄由美子（昭和62年卒業）

皆様こんにちは、昭和62年卒業の高雄由美子です。2019年1月1日付で兵庫医科大学病院ペインクリニック部教授を拝命いたしました。さて私のこれまでの経緯ですが、兵庫医科大学を昭和62年に卒業した後、神戸大学医学部附属病院麻酔科学教室に入局しました。入局後は、兵庫県立明石成人病センター（現県立がんセンター）、県立姫路循環器病センター、県立こども病院、加西市立加西病院で研修し、さまざまな麻酔の経験を積むことができました。平成4年から神戸大学医学部付属病院麻酔科助手、平成12年から講師、そして平成25年から准教授を務めさせていただいておりました。麻酔科は、周術期の麻酔管理以外にもペインクリニックや、ICU、緩和ケア、救急医療にスペシャリティを求めることが可能です。私はペインクリニックを選びました、と書きますと、これまで順風満帆できたように思われるかもわかりませんが、決してそうではありません。ほぼペインの専従になったものの、それまで神戸大学でペインクリニックを専従で頑張っておられた先生方が、いろいろな理由で去られることとなり、残った私が35歳過ぎで外来医長と病棟医長を兼任することとなりました。しかもペインクリニック学会

の専門医も取得していない状況で、一時期神戸大学は教育機関であるにも関わらず、ペインクリニックの指導病院から外れるという屈辱的な経験もしました。当初はできないことやわからないことも多く、くじけそうになる時もありましたが、なんとか頑張ってこられたのは多くの先生に支えてもらったおかげです。当時の兵庫医大ペインクリニック部と村川和重名誉教授には、いろいろ助けて頂き感謝しております。この度、麻酔科学・疼痛制御科学講座の廣瀬教授にお声掛け頂き、平成30年4月にペインクリニック部准教授として母校に戻ってまいりました。母校と申しましても、ほぼ30年ぶりです。赴任前はいろいろ不安もありましたが、皆様に温かく受け入れて頂き、大変感謝しております。また7月6日に開催されました第42回緑樹会総会では、記念講演をする機会を与えて頂きました。その際に緑樹会から就任のお祝いの花束や記念のお品まで頂戴し、とても嬉しく感激いたしました。やはり母校はいいなあ、と改めて思いました。これからが正念場だと肝に銘じ、今後は少しでも母校のためにお役に立てれば、と思っております。微々たる力ではありますが頑張りますので、どうぞ宜しくお願ひいたします。



教授就任のご挨拶

内科学 呼吸器科

教授 栗林 康造 (平成7年卒業)

2019年7月1日本学内科学呼吸器科の木島貴志主任教授の御推挙を賜り、同教授を拝命致しました。この度、教授就任にあたり、この紙面をお借り致しまして、同窓会緑樹会の皆様に御挨拶をさせて頂きます。尚、2011年朝日大学歯学部総合医科学講座教授を拝命致しました際に自己紹介はさせて頂いておりますので、重複は避けたいと存じます。

私は、1989年(平成元年)に本学に入学し、1995年(平成7年)阪神・淡路大震災の年に卒業致しました18期生です。卒業後、杉田實教授の主宰されます当時の第5内科に入局させて頂き、呼吸器疾患、特に非腫瘍性疾患を中心とした、呼吸器・アレルギー疾患の臨床に従事して参りました。1997年(平成9年)大学院進学後は、マウスのアレルギー性気道炎症モデルを用いて、呼吸器アレルギー疾患におけるサイトカイン及びストレス蛋白の研究に取組んで参りました。その後、私の大学院終了時が、まさに大学の変革時期と重なり、本学でも所謂ナンバー内科は解消され、内科学講座の臓器別再編成が推し進められ、呼吸器内科は肺癌、悪性胸膜中皮腫など腫瘍性疾患を中心とした、当時の第3内科の呼吸器グループと合併し、2003年(平成15年)に総合内科(呼吸器・RCU科)の主任教授に中野孝司先

生が御就任され、このようにして、大学内の呼吸器内科が統合され、私は、呼吸器病学全般の疾患を対象に、今まで、臨床に従事して参りました。

その後、朝日大学歯学部では内科学教授(2011年-2014年)を経て、本学帰学の際には、降格人事という極めて貴重な経験もさせて頂きました。

2017年(平成29年)4月に大阪大学から木島先生に当科の主任教授に御就任頂きまして現在の体制となりますが、木島教授には、御就任から現在に至るまで、終始一貫して決して先入観に捉われることなく、大きな愛と懐の深さで我々医局員に接して頂いておりまして非常に感謝しております。

さらには、誠実さと向上心をもって、私利私欲を捨て教室運営ならびに母校の発展に貢献するよう、御指導も頂戴致しております。

このように、平成元年に本学に入学以後、皆様のおかげをもちまして、令和元年に臨床教授に就任させて頂きました。今後も、一生懸命真摯に、人間として生きていく所存ですので、同窓会緑樹会の皆様におかれましては、今後とも御指導、御鞭撻の程、何卒宜しく御願い申し上げます。



客員教授就任に際して

奈良学園大学 保健医療学部 客員教授
竹村医院レディスクリニック 院長代行
平野(竹村)文男 (平成7年卒業)

私は、このたび、ご縁があり、2016[H28]年4月より、奈良学園大学・保健医療学部の客員教授を拝命しております。客員教授の肩書とともに研究室もいたいた背景には、できるだけ多くの科目を教えてほしいという奈良学園大学のお考えがあるようです。現在は、院長職である父の入院により院長代行をしていますが、日々の診療の合間をぬって看護を中心とする複数の医療系の大学・専門学校にて、講義を行っています。

講義を始めた直接のきっかけは、西宮市医師会看護専門学校の丸山校長先生(当時)から、「『呼吸器疾患の病態生理』を教える先生がいないので、教えてくれませんか?」とのご依頼でした。私は、かつて他大学の園芸学部(一般的には農学部という名称です)で学びましたが、「医学部の講義はなぜこんなに理解が難しいのだろう?」と考え、将来教える立場になれば、学生さんが理解しやすい講義をしたいと考えていました。今から考えれば、この考えは私の理解力に問題があることが明らかなのですが、結果的にはこの考えが大学・専門学校の講義を行う原動力となりました。ただ、一番講義を行ったかった科目は、興味を持っていた「公衆衛生学」でしたが、「第1希望の科目以外でもやってみよう!」と考え、お受けすることにしました。それから早いもので16年が経過し、2004[H16]年10月より同校にて依頼されたこの科目の講義を皮切りに、以後、東は群馬県高崎市から西は愛媛県宇和島市まで7校、看護学科のほかには救急救命士科、作業療法学科、園芸療法学科(兵庫県立淡路景観園芸学校)で講義を行いました。また、講義科目は、内科各科目(専門外の皮膚科・眼科・耳鼻科も!)の病態生理学、公衆衛生学、疫学、保健統計学、そして昨日Testの採点が終了したばかりの2019[H31/R1]年度前期の構造機能学(解剖生理学)など、広い分野に及んでいま

す。私の講義のモットーは、「明るく、楽しく、全員参加の講義」です。初めて学ぶ事柄なのでわからなくて当然、減点法でなく加点法で、Testで100点満点中1点であっても1点取れたことを評価する、など教育の常識(?)とは異なる教育を行っています。上記はすべて、学生さんに少しでも私の講義する科目に興味を持つてもらい、好きになってもらうことが重要と考えるからです。興味を持ち、好きになった事柄に対して、人間は信じられない力を發揮すると、私は考えています。

さて、15年間、医療系の大学・専門学校で講義をして感じたことは、教える人材の不足です。特に、医学関係の科目では医師が講義をすることになっており、講師に事情が出来て、翌年度から講義できない場合に、どの大学・専門学校でもその後任の講師を探すことが非常に難しくなっているようです。もし、私のこの手記を読まれている方で、医療系の大学・専門学校にて講義を行ってみたいという先生がおられましたら、ぜひ私の所までご連絡をいただきたいと思います。この文末にE-mail addressを記載しています。講義のコツなどを伝えしますので、医師で医療系の大学・専門学校で講師をしている私たちのお仲間になつていただければ幸いです。医療系の学生さんに、医学の面白さを伝えることができれば、私たちはとてもhappyです。

緑樹会会員の先生方におかれましてはご支援、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。最後になりましたが、本年7月10日の締切が私の講義の一番忙しい時期にあたってしまい、執筆が大幅に遅れたにもかかわらず、辛抱強くお待ちいただきました緑樹会事務局の皆様に厚く御礼申し上げます。

〔Fumio HIRANO-TAKEMURA,
E-mail : hgd77801@hcc6.bai.ne.jp,
[2019[R1=H31].08.05.MON.記]〕



兵庫医科大学ささやま老人保健施設長就任に際して

兵庫医科大学ささやま老人保健施設 施設長
兵庫医科大学地域総合医療学 教授
下 村 壮 治 (昭和57年卒業)

この度、兵庫医科大学ささやま老人保健施設長を拝命し、4月1日より着任いたしました。私は昭和57年に兵庫医科大学を卒業後旧第3内科に入局し、昭和58年に就任された故東野一彌教授に師事しました。その後、波田壽一前主任教授と西口修平主任教授に肝臓病学の御指導を賜りました。教室は医局再編を経て内科学肝胆脾科となり、平成22年に同准教授、平成23年4月に地域総合医療学教授、兵庫医科大学ささやま医療センターに赴任しました。診療では専門医と総合内科医の両面で地域医療に取り組み、平成27年からは同センター副院長を拝命し、現職に就任致しました。これまでには、保険診療の保険医としての立場でしたが、介護保険での業務に直面し戸惑う日々です。例えば所定疾患(誤嚥性肺炎、尿路感染症、帯状疱疹)のみ月1回、7日を限度として定額の療養費が算定できる等はその一例です。施設入所者は医療必要度が高い後期高齢者で且つ認知症を伴っている人が多く、病状が悪化する事は日常的で、身体診察と限定した検査での診療が求められます。さらにポリファーマシーへの対応は喫緊の問題であり、かかりつけ医との連携が重要です。

本施設は平成11年9月に開設以来、高齢化の進む丹波篠山地域の中で、併設のささやま医療センターの医療機能を活用した特長ある施設として地域の皆様に支えられ成長してまいりました。今年は開

設20周年であり、感謝の気持ちを込めた行事を検討しています。施設は、入所100人(認知症専門棟30人)、通所リハビリテーションと介護予防通所リハビリテーションを行っており、職員数は84人です。

一方、行政の今後の医療・介護政策の方向性、丹波篠山地域の人口構造等を考慮しますと、本施設の果たすべき役割は、今後益々大きくなるものと思われます。老人保健施設は、要介護高齢者の在宅復帰を目的とした地域生活支援のために創設された施設であり、医療機関からの退院の受け皿として、またリハビリテーションによる機能改善と社会復帰への支援、さらにターミナルケアのニーズの増加に応えて「看取り」も行っています。また、平成30年度の介護報酬改定では、従来の「在宅強化型」に更に「超強化型」の評価が加わる等、介護老人保健施設の役割が在宅復帰・在宅療養支援であることがより明確な報酬体系の見直しがなされました。これに応えるべく、ささやま医療センター、ささやま居宅サービスセンターとの連携を強化し、地域包括ケアシステムの拠点としての施設運営に取り組みます。そして在宅強化型の目標である「介護を地域で完結させること」と本学の建学の精神である「社会の福祉への奉仕」を実践いたします。緑樹会同窓の皆様には一層の御指導御支援をお願い申し上げます。



病院長就任のご挨拶

医療法人社団董会 名谷病院
病院長 高橋 良典 (平成7年卒業)

緑樹会の皆様、こんにちは。平成7年卒業の高橋と申します。大学時代は、スキー部に所属しておりました。私の人生は、兵庫医大競技スキー部から始まったと言ってもおかしくはありません。冬の期間はもちろん、夏場の万年雪での練習も含めて数えきれないほど長野県との往復を車でしました。当時、高速道路の長野道は開通しておりませんでした。今では、若さ故に出来た事だなあと思います。先輩後輩と寝食をともに色々な土地で過ごす時間や他大学の友人達との交流は貴重な経験と思い出です。学生時代に作られたスキー部魂は、今でも宿っております。

私は、卒業と一緒に迷わず母校の整形外科教室に入局しました。高校生の時に膝関節鏡の手術を受けた事や、幼少期よりスポーツの部活に所属していた影響だと思います。当時の整形外科教室は、軍隊と言われておりました。過酷な指導に耐える事が出来たのも、スキー部での経験があったおかげであると感謝しております。研修医を無事に終えた後は、色々な関連病院で先輩達に指導を仰ぎました。兵庫医大の先輩後輩の関係は、本当に素晴らしい関係であると今でも痛感しております。

平成19年に医局を離れ、ご縁で名谷病院にお世話になる事になりました。大学病院や市民病院といった基幹病院で働いていた私にとっては驚きの連続でした。

少し当院の紹介をさせて頂きます。名谷病院は、阪神・淡路大震災から一段落した平成13年に神戸市のベッドタウンである垂水区名谷町に112床で開院しました。地域に根付いた医療を目標に併設型介護老人保健施設名谷すみれ苑(128床)と垂水すみれ苑(100床)を開設しております。高齢者を視野に入れ地域に貢献出来るように、平成21年には垂水区で唯一の回復期リハビリ病棟と持つ病院となりました。これにより在宅復帰を目指す患者さんのために、しっかりとリハビリで自信を持って在宅への橋渡しが出来るようになりました。その後に地域包括ケア病棟も開設され、患者さんのニーズに応じたケアが行える体制が整ってまいりました。それだけでなく、訪問看護・訪問リハビリ・訪問介護など訪問診療にも積極的に取り組んでいます。現在では、在宅療養支援病院として地域に密着し、積極的に在宅生活・復帰をサポートする整形外科&リハビリテーションをメインとした病院として地域医療に密着した存在です。平成27年に病院長に就任する事になりました。病院理念である高度で良質な医療を継続して提供するため、多職種連携の視点を大切にしたチーム医療を実践し、地域医療への貢献に努めて参りたいと思っております。緑樹会の先生方には、引き続き一層のご指導ご鞭撻を賜りますようにどうぞ宜しくお願ひ申し上げます。



京都にて

医療法人社団貴順会 吉川病院
病院長 佐々木 健 (平成8年卒業)

緑樹会の皆様、こんにちは。平成8年卒業の佐々木健と申します。

平成28年10月より京都にある貴順会吉川病院で院長を務めています。

私は平成8年卒業後、太城力良教授の麻酔科学教室に入局し研修しました。その後、三田市民病院、兵庫医科大学病院、公立八鹿病院と勤務し、手術麻酔、集中治療、ペインクリニックと研鑽を積ませていただきました。

平成16年より出身地である京都に帰り、麻酔科クリニックを始めました。京都を中心にいろいろな病院で麻酔業務を行い、平成23年ペインクリニックを開業。4年間頑張ったのですが、残念ながら閉院となってしまいました。診療することと経営することの違いを痛感しました。ただその時に通院されていた患者様より吉川病院を紹介いただき麻酔科医として働くことになりました。その翌年、吉川病院理事長が世代交代される際に、先代院長も退職されることになり、院長をさせていただくことになりました。

貴順会吉川病院は、病床数52床の病院で京都大学医学部付属病院の東側、数百mのところにあり、設立以来地域医療、救急医療に携わってきました。

現在は整形外科を中心に診療しており、外傷および脊椎手術、関節手術等年間約650症例を行っております。私が麻酔科常勤医として働き始めるまでは、麻酔科医は非常勤医師を依頼していたため、手術件数も年間約350症例と今の半数でした。そのため緊急手術が出来ず、救急外傷への対応ができない状態でした。現在少しずつですが地域の救急隊の当院への認知も変わり始めているところです。

麻酔科医は、麻酔や手術中の全身管理の専門家として周術期管理や救急などで他科と連携し、ペインクリニック、緩和医療などを通して患者のQOLの向上など、手術室でのコーディネーターとして、また患者の安全を守るエキスパートとして多岐にわたる役割が求められています。そうした周術期・手術室で学んできた管理技術やコーディネーション能力を病院全体の管理、運営に生かしていくければと考えています。

とはいっても、就任3年目になりますがまだまだ何もできていないのが現状です。兵庫医科大学出身者として恥じのないよう頑張っていきたいと思います。今後も緑樹会の諸先輩先生方にはご指導いただきたくよろしくお願ひいたします。



病院長就任に際して

純徳会 田中病院

理事長・病院長 金澤 優純 (平成7年卒業)

日頃より緑樹会の諸先生方にはお世話になっております。平成23年3月に父から医療法人純徳会 田中病院の理事長を引き継ぎ平成28年12月16日に院長に就任しております。私は平成7年に兵庫医科大学を卒業後、平成8年に圓尾宗司教授の主宰する整形外科学教室に入局しました。入局後あまりの過酷さに知らぬ間に白衣のズボンが緩くなっていたのを覚えています。谷口睦先生、木下巖太郎先生の厳しい指導のもと(今となっては感謝しております)大学病院で2年間の研修を終え丸川征四郎教授の主宰する救急救命科で1年間お世話になりました。その後、当時兵庫医科大学病院整形外科の関連病院であった四日市市民病院を希望し辻博生整形部長、松浦裕実副部長、中野啓三先生や川村清志先生のもとで主に外傷を学びました。病院の近くに部屋を借り、夜も頻回に病院に呼ばれましたが経験を積むのが楽しく充実した日々でした。四日市市民病院が関連病院から外れることになり1年半の四日市での生活を終えて須磨赤十字病院での勤務を経て、病院長をされていた立石博臣先生にお声をかけて頂き篠山病院に異動となりました。片道50kmと通勤がたいへんな面もありましたが、手術では立石先生、松田泰彦先生と一緒に手洗いさせていただく機会が多くたいへん勉強になりました。冬は獅子鍋を週1回ごちそうになったのも懐かしい思い出です。3年間の篠山での勤務を終えて圓尾教授が退任され、吉矢晋一教授が就任された整形外科教室に戻り

本院で1年間勤務させて頂きました。大学病院では腫瘍グループの麿谷博之先生や関節グループの福西成男先生にご指導頂き感謝しております。大学病院の勤務を終え平成18年に兵庫医科大学病院の対岸にあります当時父が経営していました当院に勤務となりました。当院は祖父である田中豊一が昭和19年に開業し、現在は内科・整形外科135床で運営しております。現在内科は旧第三内科の平賀浩樹先生に整形外科では武藤力先生・三木祐豪先生・樋口史典先生に常勤医師として勤務して頂き地域医療に貢献しています。また先輩の大迎知宏先生に週1回手外科外来と手術をお願っています。その他に兵庫医科大学病院の肝胆膵内科・糖尿病内科・総合内科・循環器内科・外科・泌尿器科の先生方にも協力頂いています。当院は祖父が地域医療を目的として設立し今年で75年になりますが、今までに多くの兵庫医科大学を卒業された先生方に支えられ今日があるものと心より感謝しております。私は病院の社会的役割には医療と雇用があると考えています。院長を務めるにあたり自分を含め我々職員が仕事のできる場があることに感謝し、病院に携わってきた先人への感謝を忘れず、また調和・協和を大切にしていきたいと思います。そして医療機関としても成長し微力ながら地域医療に貢献していきたいと思います。緑樹会の皆様には今後もお世話になりますが何卒よろしくお願い申し上げます。



病院長就任に際して

医療法人豊繁会 近藤病院
病院長 武田昌生（平成15年卒業）

平素より緑樹会の先生方にはお世話になっております。平成30年4月1日付で医療法人豊繁会近藤病院院長を務めております武田です。私自身の卒後報告を中心のご挨拶をさせて頂きます。私は学生時代より、将来は思い出のある兵庫医科大学近くの患者様に近い臨床現場において働きたいとの思いを持っておりました。兵庫医科大学在学中は軽音楽部の部長を2年間させていただき、その時に学んだチームのマネジメント感覚は今の職場にも確実に生かされているように思います。また、在学中に今現在も関係の続いている多くの友人に恵まれた事も大きな財産です。卒後はその当時の大学医局では珍しく総合的に内科を学べうだとの理由で(内科志望ではあったのですが、どの臓器という特定が学生時代に出来なかつたのが正直な理由です)大阪大学老年・高血圧内科学教室に入局致しました。平成15年4月より大阪大学医学部附属病院内科系医員として研修医1年目のスタートとなりました。その年の研修医1年目はスーパーローテーション研修制度開始前の最終学年ということで、研修カリキュラムとしては既に大阪大学内科系医局に入局した様々な出身校の研修医が、所属医局とは関係なく5~6名のグループに分かれ、3ヶ月ずつ内科系診療科を全般的にローテートするというものでした。様々なバックボーンを持つ研修医がポリクリのようにグループとなるため非常に刺激的な1年間を送ることが出来ました。医師2年目からは、渡辺医学会 桜橋渡辺病院で3年間お世話になり、循環器科を中心とする急性期および慢性

期の管理を学ばせて頂きました。その後は平成19年に大阪大学老年・高血圧内科に大学院生として戻り、平成25年に博士課程を修了後、老年・高血圧内科、総合診療部の病棟主任として診療、臨床研究、研修医および学生教育をと病棟現場におけるプレーイングマネージャー的な日々を送ったことも非常に貴重な経験でした。大阪大学附属病院における研修医は兵庫医大の卒業生も多く、昔の自分をみるような思いで母校出身の研修医に接していたのが良い思い出です。兵庫医大卒業の研修医は非常に人間味があり、こちらとしても教え甲斐のある先生が多かったです。

現在は近隣の先生方との交流が多い日々ですが、やはり兵庫医大出身の先生方は堅実で人間味の溢れる先生が多く、非常に有難く感じております。

さて当院は「決して断らない病院」を目標に地域への貢献に約70年努めてきました。国道2号線沿いの「ピンクの病院」として目立つものの、99床という比較的小規模の二次救急病院ですが、年間2500件を超える救急要請の受け入れを行っております。まさに野戦病院の様相を呈しており、病院スタッフは身を粉にして日々奮闘しております。

また、当院理事長の近藤貴志先生とは小学生時よりの幼なじみという間柄でもあり、共にしっかりとタッグを組み、病院および地域のパフォーマンス向上に末永く尽力して参りたいと思っております。若輩者の私ですが、今後とも、どうぞ御指導の程を宜しくお願い申し上げます。



病院長就任に際して

尼崎医療生協病院
病院長 大澤芳清（平成3年卒業）

平成3年卒の大澤です。昨年5月尼崎医療生協病院院長に就任いたしました。就任直後は何が院長業務かわかりませんでした。就任前は医師会の行事には全く参加はしていませんでしたが、色々な機会を利用して地域の先生方とお話しするように心がけています。医師会には同窓の先生がたくさんおられ、いつも優しく時には厳しくご指導をいただいております。

同窓の先生にご挨拶をさせていただくと、大抵「きみ兵庫医大だったの」と言われてしまいます。隠していたわけではありませんが今までの行いを深く反省しています。

ようやく2年目にはいりました。本年2月には卒後臨床研修評価機構の認定評価を受けました。また6月には病院機能評価機構の評価を受けました。院長としてこの病院をどう導きたいか、研修医や職員に対してどのように関わり育てていくかなどプレゼンを行いサーバイマーからきびしい質問を受けました。私は今までこのような病院運営を考える機会がなく目の前の患者さまを治療することを仕事としてきました。ようやく院長として何をすべきかが少し見えてきた気がします。今までの仕事と違う内容と緊張感な

ので日々反省しながら業務をこなしています。とはいっても机の上には毎日すごい量の報告書が届き、読むより早いペースで増えている印象でありますという間に山のようになっています。はたと気がつくと日が暮れていて、誰かに「ボーッと生きてんじゃねーよ！」と叱られてしまいそうです。頑張って会計や経営の本などを読んで勉強しようと思うのですが、読み聞かせ絵本のような効果でいつも深い眠りに入ってしまいます。不摂生もあり知識は増えず体重と腹囲は順調に成長を遂げています。

気分転換というわけではありませんが、ほぼ毎週日曜朝武庫川河原で子供達と一緒にラグビー(今年はタグラグビーですが)をしています。指導する立場にあるのですが、残念ながら子供達に指導方法や人の動かし方などを教えてもらっている状態です。秋には県大会があり、子供達が楽しく試合をすることができるよう準備をすすめています。そして子供達が大人になってもラグビーに関わって欲しいと願っています。

仕事もラグビーもまだまだこれからです。同窓の皆さんにはご迷惑をおかけ致しますが、今後もご指導いただきますようお願い致します。



大学経由西宮回生病院行き

西宮回生病院
病院長 福 西 成 男 (昭和63年卒業)

63年卒の福西成男です。このたび長い間お世話になった大学病院を退職し2019年4月から西宮浜の西宮回生病院に院長として勤務しています。在籍していた整形外科教室の吉矢教授が3月で退職されるにあたり御一緒に退職させていただいて、また同じ病院に勤務するという、主任教授と准教授が同時に同じ病院に移動！！という大胆な人事異動になってしましました。

私自身は院長先生などという柄では全くないのですが、これまで大学であらゆる雑務を一手に引き受けた吉矢教授が“役職はもうお腹いっぱい！！”とのことで顧問に就任され、私が院長ということになってしまいました。

私自身の紹介をさせていただきますと、大学時代はサッカー部で、外科医としては近い将来メスを置く日がやってくると思いますが、サッカーはあの世に逝く2、3日前まではボール蹴っていようかな？と今でも続けています。仕事の方はS63年、昭和最後の年に兵庫医大を卒業し整形外科教室に入局。H31年、平成最後の年まで、ちょうど平成の期間中31年間を兵庫医大整形外科教室とその関連病院で研鑽を積ませていただきました。大学病院では特に股関節外科を中心診療を行ってきました。中高年の股関節症に対する人工股関節置換術や、若年から壮年期股関節症に対する骨切り手術による関節温存手術などが主戦場でした。どういうわけか？31年のキャリアのほとん

どが大学病院勤務で地域の中核病院で研修をしなかった非常に偏った整形外科医です。しかしこのたび4月から勤務しております西宮回生病院は明治40年の開設以来、戦争や震災も経て長いあいだ阪神地区のみなさまに親しまれてきた歴史ある病院です。映画『火垂るの墓』でも紹介された病院のシンボル的なドーム型の正面玄関を含めた旧病院の建物は地域の皆様に惜しまれつつH28年に新病院として生まれ変わっています。また前院長の井上馨先生(4月より名誉院長として勤務されています)はこれまで地域の小児科の拠点病院として長く回生病院を盛り上げてこられました。今後はこの歴史ある病院の名に恥じないように西宮回生病院がより地域の皆様に愛される病院に発展できるように微力ながら尽力させていただこうと思っています。…という表向きの美辞麗句もありますが、実際のところ私の第一目標は、まずは31年間お世話になった“愛する兵庫医大整形外科教室”への恩返しとして教室のスタッフにとつて一番働きたい関連病院になればなあと思っています。

現在の西宮回生病院の特色は、内科、小児科、整形外科、眼科、皮膚科、脳神経外科の診療科を備えた総合病院的な要素も保ちつつも、H28年の新病院スタートより整形外科とリハビリテーションを中心とした整形外科色を前面に出した病院に変貌を遂げています。病院自慢のリハビリテーションスタッフは現在99

名、整形外科スタッフは7名、私と吉矢先生を筆頭に、2年前の新病院開設の前から整形外科の立ち上げに尽力してくれた部長の福井先生(H14年卒ラグビー部)と神原先生(H19年卒サッカー部)の2人に加え、神頭先生(関西医大卒サッカー部ちなみにお父様は兵庫医大2期生です)天井先生(H27年卒ラグビー部)森尾先生(H29年卒サッカー部)で吉矢先生も神戸大ラグビー部ですので、サッカー部OBとラグビー部OBで結成された体育会系整形外科病院となっています。特に福井先生は、H17年に大学病院でたった2人の股関節班を立ち上げた時の盟友で、また当時の初心に戻れて楽しみでしかり

ません。

今後はさらに整形外科手術に特化した病院として、一般的な骨折治療はもとより、私の専門分野の中高年の関節機能障害の再建から、吉矢先生の専門領域であるトップアスリートのスポーツ障害の治療まであらゆるレベルの整形外科治療に対応し、手術は最新のナビゲーションや早期社会復帰に対応した最小侵襲手術(MIS)を行ったうえで病院の最大の特徴である急性期リハビリテーション、回復期リハビリテーションによる患者さんの機能回復を図り阪神地域に貢献できればと考えております。



4. 准教授・講師就任のご挨拶



外科学 心臓血管外科
准教授 良本政章 (平成5年卒業)

平成31年4月1日付で心臓血管外科学の准教授を拝命致しました。私は平成5年に兵庫医科大学を卒業(16期生)し、当時の胸部外科学講座に入局しました。それ以降、平成11年から2年間のアメリカ留学と平成22年のフランス短期留学を除いては兵庫医科大学に在籍しております。大学入学から数えると、兵庫医科大学には32年間と人生の半分以上をお世話になっていることになります。

大学では大血管疾患の手術責任者を務めつつ、冠動脈疾患、弁膜症疾患に対する

手術も手がけています。これまでの執刀数は未だ約1000例で、名だたる心臓血管外科医の足元にも及びませんが、1例1例を大切にしながら、貴重な経験を積んできました。今後は後進の若手外科医を育てることにこれまで以上に注力していく所存であり、これまで培った経験が活かせればと考えております。会員の皆様におかれましては、今後ともご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



内視鏡センター／内科学 消化管科
准教授 富田寿彦 (平成9年卒業)

平成31年4月1日より内視鏡センターの准教授を拝命いたしました富田寿彦です。私は1997年に兵庫医科大学を卒業し、旧第四内科（現在の消化管内科）に入局しました。臨床研修医を経て、故下山孝教授のご指導の元、卒後翌年の1998年から英国Leeds大学に留学し、Helicobacter pyloriの研究で学位を取得しました。帰国後は兵庫医大の代名詞であるヘルコバクターピロリ感染、炎症性腸疾患など下山先生に多くの指導を受けました。2004

年からは三輪洋人教授が着任し、機能性消化管障害、消化管癌の内視鏡治療、化学療法などを中心に臨床・研究を行ってまいりました。現在は内視鏡センターで日々後輩医師たちと内視鏡検査に明け暮れております。本学で22年間色々と勉強させていただいたことを少しでも母校に寄与できますよう、微力ではありますが、責任と自覚をもって努力して参りたいと思います。今後ともご指導・ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。



内科学 リウマチ・膠原病科
准教授 東 直人 (平成11年卒業)

2019年4月1日准教授Aを拝命致しました。1974年和歌山市生まれ、本学にOBが多い智辯学園和歌山高校出身です。1999年本学卒業後第2内科（垣下榮三先生、濱野照明先生）入局、兵庫県立淡路病院内科（児玉和也先生）、国立病院機構大阪南医療センターアレルギー科（佐伯行彦先生、片田圭宣先生）を経て、2007年より当科（佐野統先生、松井聖先生）に勤務しています。卒後20年を迎えますが、この20年で関節リウマチ（RA）診療は目覚ましい進歩を遂げました。特

に現在RA治療のアンカードラッグとされるメトトレキサート（MTX）が本邦で承認されたのが私の卒業と同じ1999年であり、今年は本邦の新しいRA治療が成人を迎えたアニバーサリーイヤーです。ともに歩んだ同期MTXとともに本邦のRA診療がさらに成熟するよう診療、研究、教育を通じて貢献したいと意気込んでおります。

引き続きご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い致します。



脳神経外科学
講師 内田和孝 (平成12年卒業)

2019年4月1日より脳神経外科の講師を拝命いたしました。私は平成12年に兵庫医科大学を卒業し、脳神経外科学に入局しました。研修医の2年を本学で研修し、シミズ病院、合志病院、友愛会病院で研鑽した後、2009年より当院に再度赴任し、前有田憲生教授のご指導の下、脳卒中の外科、血管内治療を多数経験させて頂きました。

また。2013年より現吉村紳一教授にはアカデミアの指導を受け、学位取得、講師就任に至りました。

今までに培った知識や経験をもとに、母校である兵庫医科大学の発展に微力ながら貢献していきたいと思います。

今後ともご指導のほど宜しくお願ひ申し上げます。



内科学 消化管科
講師 戸澤勝之（平成13年卒業）

2019年4月に内科学消化管科の講師を拝命いたしました。兵庫医科大学を2001年に卒業し、自治医科大学大宮医療センター（現・さいたま医療センター）で初期研修を行いました。私の時代はスーパーローテート方式でなかったのですが、内科全般と、外科・小児科・麻酔科を初期研修の際に研修できるとのことで医療センターを初期研修先に選びました。

父親の逝去を機に、母校であり、かつ、父が勤務しておりました兵庫医科大学に戻り、内科学下部消化管科に2004年7月入局しました。当時の医局長に「上と下、

どっちがいい？」と電話で聞かれ、当時の上司に相談したところ、「これからは大腸の時代だから下がいいのでは？」とアドバイスを頂き、下部に入局しました。

故・松本誉之主任教授のもと、炎症性腸疾患を中心に指導を受け、松本教授が逝去されてからは、三輪洋人主任教授のもと、消化管がんを中心に診療に従事しております。愛知県がんセンター中央病院に国内留学させて頂き、教授には感謝しかありません。消化管がんを中心に頑張りますので皆様、今後とも宜しくお願ひいたします。



内科学 循環器・腎透析内科
講師 今仲崇裕（平成18年卒業）

平成31年4月1日より冠疾患科の講師を拝命致しました平成18年卒の今仲崇裕です。

兵庫医科大学を卒業後、本学で2年間の初期研修を行い、その後4年間、大阪南医療センターで勤務致しました。平成24年に本学に戻ってきてからは血管内治療（主に虚血性心疾患）を専門に従事しております。一般的に急性冠症候群の院内死亡率はCCUの整備、早期再灌流療法をはじめとする診断・治療の進歩によって改善してきました。しかし、そ

はいっても急性冠症候群は致死的疾患でありますので、急性期の現場で安全で質の高い医療を行うことができるよう尽力する所存です。安定冠動脈疾患等の待機的症例に対しても同様に十分な医療を提供できるよう尽力致します。また、教育と研究も積極的に行っていきたいと考えております。今まで培ってきた経験と知識をもとに、母校への発展に貢献していきたいと思いますので、今後ともご指導ご鞭撻の程を何卒宜しくお願い申し上げます。



耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
講師 美内慎也 (平成15年卒業)

令和元年7月1日より耳鼻咽喉科・頭頸部外科の講師を拝命いたしました。私は平成15年に兵庫医大を卒業し、旧研修医制度最後の学年として耳鼻咽喉科に入局いたしました。2年間研修の後、大学院へと進み、味覚の臨床研究にて学位を取得いたしました。その後、愛媛県松山市にある鷹の子病院で3年間、宝塚市立病院で3年間勤務し、平成27年4月に本学へ戻ってまいりました。鷹の子病院で中耳手術の大家である柳原先生の元で勉強させて頂いたご縁もあり、大学では中耳手

術を専門とさせていただいています。阪上教授、三代教授、桂講師の元で数多くの手術を経験させて頂き、研鑽を積んでまいりました。本年4月から阪上教授が病院長となられ、6月末に三代教授、桂講師が退職された事もあり、臨床、教育、研究において今後これまで以上の努力と自己研鑽が必要と感じております。これからも、引き続きご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願ひいたします。

5. 兵庫医科大学副学長就任に際して



炎症性腸疾患学 外科部門 主任教授

兵庫医科大学 副学長

池 内 浩 基 (昭和62年卒業)

この度、平成31年4月1日付けて、兵庫医科大学副学長(大学院・産官学連携担当)を拝命しました。私は昭和62年に本学を卒業後、当時の第二外科(宇都宮謙二教授)に入局しました。臨床研修医、関連病院等の出張の後は平成4年より現在まで、一貫して大学で勤務してきました。私が専門としている炎症性腸疾患は消化器領域ではマイナーな領域でしたが、近年患者数の急激な増加を認めています。何より安倍首相が潰瘍性大腸炎(UC)の患者さんということで有名になった領域です。兵庫医大では、消化器内科の下山教授が血球成分除去療法を澤田先生と一緒に本邦に導入したこと、第二外科の宇都宮教授がUCに対する大腸全摘・J型回腸囊肛門吻合術という、大腸全摘術後も人工肛門にならない術式を考案したことにより、炎症性腸疾患(IBD)の専門病院としての基礎が築かれました。

現在では、内科と外科のIBD専門医が毎日診療し、ストーマ外来も併設する、IBDセンターを設立しています。IBDセンターは最近全国各地に設立されていますが、当院のような形式のIBDセンターは他になく、治療をしている患者数は本邦では最も多い病院となっています。手術数もUCは最も多く、クローン病は2or3番目といったところです。

さて、この度副学長として担当させていただくのは大学院と研究並びに外部からの研究資金の獲得推進が主な領域にな

ります。後者は私としては非常に不得意な分野ですが、前任の藤元教授に少しでも近づけるように努力していきたいと考えています。大学院の年限は4年ですが、最近の問題として4年間で学位の取得ができる大学院生の減少が問題となっています。やや改善傾向ですが、それでもまだ40%程度と決して高いとは言えません。兵庫医大生の特徴としては穏やかな人のいい先生が多い反面、自分に対してちょっと甘い先生が多いのも事実です。少なくとも4年修了時に50%以上の大学院生が、学位取得できるように、大学院委員会の先生方と議論を進めていこうと思います。

兵庫医科大学はハードの面でも大きな転換期を迎えています。5号館、6号館、動物舎の跡地に新しい新教育研究棟が立ち、学生と基礎講座の先生方の研究室は快適なものになりました。医科大学としてはやはり病院機能の充実は避けて通ることのできない大きな問題です。現在、新病院建設に向けて工事が進捗中です。西宮市では市立病院と県立病院が合併して新病院建設計画が進行中です。それに負けない病院建設が必要だと思います。

卒業生の一人として、兵庫医科大学の教育・診療・研究が少しでも前進するよう努めていこうと思っています。同窓会の先生方のご支援を今後ともよろしくお願いします。先生方の各方面でのご活躍を期待しております。

6. 兵庫医大教授に就任された先生から 緑樹会会員へメッセージ



先端医学研究所神経再生研究部門
教授 中 込 隆 之

平成30年4月より、前任の松山知弘教授の後任として、先端医学研究所神経再生研究部門教授を拝命しております。私は平成9年に和歌山県立医科大学を卒業し研修を経て、平成12年より兵庫医科大学内科学講座(第5内科、総合内科)にて診療、研究、教育に携わってきました。その後、兵庫医科大学で学位を取得し、平成18年より、現部門にて、幹細胞・再生医療に関する研究に取り組んでいます。

大学の発展には、教育、研究、臨床の3つの要素がバランスよく、高いレベルで維持されることが必要ですが、年々、個々の要素において求められることが、多岐に及んでおり複雑化しているように思われます。一方、世間では働き方改革という意識改革が浸透しつつあり、私たち、医療界においても、これまで以上に、勤務時間内に業務をやり遂げることが必要になってきました。限られた時間の中で、年々増加しつつある大学のミッションを実現化していくためには、個人として、そして大学全体として、今後、いかに対応していくかを考えなければいけない時期に差し掛かっているように思っています。

私たちの部門は研究所なので、日常業務の主体は研究や教育ですが、臨床部門では研究や教育に加えて、臨床業務もあるので、私たち以上に、上手に時間管理をしなければ、研究自体に費やすことができる時間はほとんどなくなってしまいかねませんし、それに伴う研究成果の衰退は、大学全体として非常に大きな損失にも繋がりかねません。そこで、私も、就任後は日常業務を一旦見直し、目標と

する研究成果の達成に必要なものとそうでないものを取捨選択し、無駄な時間を極力減らすように努めています。ただ、研究の場合、過去の歴史を振り返ってみると、一見、無駄と思われるような事項から、新たな発見が生み出されることも多いように思われます。話は変わりますが、先日、庭の木の枝が非常に茂ってきたため、枝を伐採したのですが、例年より、枝を多く切り過ぎてしまったところ、木そのものが枯れてしまいました。今回のことを教訓とし、本当は必要であった無駄までも誤って除去することのないよう、細心の注意を払いつつ、本来の研究に必要なゆとりある時間を少しでも捻り出したいと思っています。

早いもので、就任後、あっという間に約1年が過ぎ去りました。研究に関しては、基礎研究から臨床研究まで、産学連携のもと、これまで施行してきたトランスレーショナルリサーチをシームレスに発展させ、「病を科学して人に捧げる」という先端医学研究所の研究理念を継承していくと考えています。また、多忙な臨床医であっても研究を継続できるように研究環境の整備にも取り組んでいくつもりですので、共同研究、学位取得のための研究など、私たちの研究に少しでも興味のある先生方(今はいいけど、もしかしたら今後、興味を持つかもしれないと思われている先生方も含め)は、是非、ご連絡下さい。末筆になりますが、兵庫医科大学及び社会に微力ながら少しでも貢献できるように努力していく次第ですので、緑樹会の皆様のご支援を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。



ごあいさつ

内科学 循環器・腎透析内科
教授 朝倉 正紀

この度、兵庫医科大学循環器内科教室の臨床教授の任を賜りました朝倉正紀と申します。緑樹会の会報誌にご挨拶の機会を頂きましたこと、大変ありがとうございます。心より御礼申し上げます。緑樹会の先生方と交流を深めたいという気持ちから、本紙面をお借りして私の自己紹介をさせて頂こうと思います。

私が医師を志したきっかけはマンガみたいと茶化されるのですが、幼稚園時に頭蓋骨骨折で命が助からないかもしれないと言われた状態から救命して頂き、その救命へのお返しとして一人の命を救いたいという気持ちがスタートとなっています。平成5年に大阪大学第一内科に入局し、頭の大怪我という経験から脳卒中内科と悩んだのですが、急性心筋梗塞を発症した留学生が見事に救命される現場を目の当たりにし、学生上がりの医師にとって刺激的であり、循環器内科を選択しました。

卒後2年目からの4年間、大阪警察病院で過ごしました。我が国独自の血管内視鏡を担当し、その研究成果が米国循環器学の教科書に採用されるという極めて貴重な経験をさせて頂きました。その間指導頂いた児玉和久先生と平山篤志先生の両先生は、医療だけではなく、人生としての指導医として、現在もご指導いただいております。

その後大阪大学に戻り、北風政史先生のもと、拡張型心筋症の網羅的遺伝子発現解析などの基礎研究に携わり、米国ペイラー医科大学に留学し、心筋発生の研

究を行いました。

留学後、国立循環器病研究センター臨床研究センターに赴任し、先生方が行う臨床研究を支援するという裏方業務に注力しました。具体的には、倫理審査委員会事務局、臨床研究計画書の作成、多施設研究の事務局長など、様々な臨床研究に関わる業務を行いました。一番の経験は医師自身が薬の承認を目指す医師主導治験の企画～運営までの実務を担当したことです。この文章を書いている際も、PMDAとのやり取りという最終段階を経験中です。昨年に臨床研究法が施行されました。薬機法下で行われる医師主導治験の実務経験を活かし、大学の使命である新たなエビデンス構築に貢献したいと思っております。

この20年間に本当に多くの先生から恩を頂くことが出来ました。増山理前教授に与えて頂きました新しい赴任地である兵庫医科大学において、この頂いたご恩を患者様のみならず、学生、研修医、医局員に少しでも返していかなければと思っております。臨床→基礎研究→臨床研究という珍しい経歴を活かし、その経験の総括として、石原正治主任教授のもと、心不全を中心とした循環器における診療、教育、研究に邁進してまいります。

緑樹会の皆様とご縁を頂きましたことを、心より感謝いたしますとともに、このご縁を大切にして、さらに発展させていきたいと思っております。今後とも、なにとぞご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。



内科学 循環器・腎透析内科
教授 倉賀野 隆裕

この度兵庫医科大学 内科学 腎・透析科 臨床教授を拝命した倉賀野隆裕と申します。私は1991年に日本大学医学部を卒業し、兵庫県(高砂市)出身である事、また中西健 前主任教授とのご縁もあり、2005年から本学にお世話になっています。日本大学では第二内科に所属し、慢性腎臓病患者様の診療に従事させて頂くとともに、基礎的な研究により酸化ストレスやカルボニルストレスが腎臓病の発症・進展や慢性腎臓病患者の合併症・生命予後に及ぼす影響を検討しておりました。本学にお世話になってからは、中西前教授のご指導の下に、慢性腎臓病病態における鉄調節障害といった全く新しい疾患概念を、世界に先駆けて基礎的・臨床的両面から検討し、鉄調節障害が慢性腎臓病患者における動脈硬化・感染症・生命予後に重要な役割を果たす可能性を報告してまいりました。幸いにもこれら成果は、国内外から高い評価を受け、多くの腎性貧血に関連したガイドラインにてエビデンスとして採用されています。今後も鉄調節障害を当科のメインテーマとし、これを更に発展させる事により兵庫医科大学ブランドの向上に少しでも貢献させて頂く所存です。診療面では、慢性腎臓病患者の初期から腎不全期(腎代替療法)、腎移植後の管理に至るまで、一

貫した方針で、質の高い医療を本学で実践しています。また兵庫県腎疾患対策協議会の代表を私が務めさせて頂いており、西宮市のみならず兵庫県全体を視野に入れた慢性腎臓病の早期発見・重症化の予防に務めています。緑樹会の皆様におかれましては、慢性腎臓病の患者様もしくは慢性腎臓病の疑いがある患者様でお困りの事がございましたら、いつでも当科をご利用頂けましたら幸いです。教育面では、腎疾患領域や電解質異常は医学部の学生や研修医には少し難解なイメージを持たれていますが、一方的な押し付けの教育・指導ではなく、対話を重要視し、学生や研修医と一緒に病態や症例に対して「考える医療」を志す事により病態生理への理解が深まる様な教育・指導を心がけています。これら教育を介して、本学の国家試験合格率の向上に貢献し、更には本学の建学精神でもある人間への深い愛を有した、良き臨床医・医学研究者を1人でも多く社会に輩出したいと考えています。これからは緑樹会の皆様のご指導・ご鞭撻を賜りながら、腎・透析内科における診療・研究・教育のレベルを更に向上させるように尽力いたしますので、何卒当科へのご支援の程宜しくお願ひ致します。



小児科学 臨床教授就任のご挨拶

小児科学
教授 奥田真珠美

2019年4月1日付で、小児科学講座臨床教授を拝命いたしました。緑樹会の皆様にご挨拶の機会をいただき、感謝申し上げます。

私は和歌山県で生まれ育ち、1987年和歌山県立医科大学を卒業、卒業後も県内の病院小児科で勤務を続けておりました。兵庫医科大学とのご縁は、元ささやま医療センター病院長 福田能啓先生からお話をいただき2014年から地域総合医療学准教授として勤務させていただいたことに始まります。自宅は和歌山市で、娘も高校生でしたので一時期は篠山市と和歌山市を週に2-3回往復するという超長距離通勤をしておりました。しかし、ささやま医療センターでのたくさんの業務、特に感染対策・研究担当副院長という役職は大変貴重な経験となり、今も私の宝物となっております。また、兵庫医科大学と篠山市(現丹波篠山市)との連携による小児のピロリ菌疫学研究では多くの研究成果を出すことができ、7本の研究論文として世界に向けて公表できました。私たちは『篠山スタディ』と呼んでいましたが、論文に出てくる『Sasayama city』はピロリ菌研究の有名な地になりました。

2017年7月から愛知医科大学小児科特任教授・公衆衛生学非常勤講師として2019年3月末まで勤務しました。1年9か月と短い期間ではありましたが、愛知県の小児消化器診療のお手伝いができたと考えています。

小児科学講座竹島教授のお力添えをい

ただき、2019年4月から兵庫医科大学小児科臨床教授として勤務させていただくことになりました。野口学長から「お帰りなさい」というお言葉をいただいた時は、恥ずかしく思いながらも感激しました。太城理事長はじめささやま医療センターでお世話になった先生がた、事務部の方々と再会でき、また一緒に仕事ができることに感激しています。

私は小児感染症学、小児消化器病学をサブスペシャリティとしておりますが、兵庫県では小児栄養消化器肝臓学会認定医は私を含めて3名しかおらず、兵庫県のみならず、全国的にも絶滅危惧種になっています。兵庫医科大学小児科が担う重要な役割の一つが小児消化器病診療と考えています。当院では小児外科、消化管科、IBDセンター、超音波センターが充実しており、認定医は私だけですが皆様に助けていただき小児消化器病外来を開始しました。兵庫県で中心的役割を担うにはまだまだ時間がかかると思いますが、後継となる小児科医の育成とともに、多くの子ども達に貢献できればと考えております。「たかが、便秘。ただの腹痛。」機能性消化管疾患を持つ子ども達は充分な診療がされずに、辛い思いをしながら学校生活を送っていることは稀ではありません。不登校と片付けられてしまうこともあり、子ども達の未来のためにも頑張りたいと思います。

皆様には様々な場面で助けていただくと思いますが、どうぞよろしくお願いいいたします。

7. 兵庫医科大学病院病院長就任に際して



耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 主任教授
兵庫医科大学病院 病院長
阪上 雅史

2019年4月1日より病院長を拝命いたしました。教職員の皆様に助けられながら何とか1か月が経ちこの原稿を書いております。

私は1980年に大阪大学を卒業後、大学院に入学し、解剖学教室で電子顕微鏡を用いて内耳血管透過性を研究しました。1984年より2年間香川医科大学で臨床の基礎を学び、大阪大学助手・講師そしてミネソタ大学留学中は一貫して耳科学/神経耳科学を専門として来ました。1994年に本学に奉職して以来24年間は、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教授として若手医師を育成するとともに、患者さんのQOLを考えた耳科手術を5000例以上行ってきました。赴任時は40歳で管理職の経験が乏しく、大学関係者や医局員、同門会員の絶大なサポートをいただきました。この紙面を借りましてお礼申し上げます。2012年より医療安全管理部長(副院長)を5年間、新病院建設・経営企画担当副院長を2年間務め病院運営に携わってきました。これらの経験を活かして、安全で質の高い医療を提供する大学病院を目指して全力を尽くす所存です。

兵庫医科大学病院は47年間に4200人を超える医師を育成し、看護師・薬剤師・技師などの医療人の育成にも力を注いできました。特定機能病院として41の診療科と29の中央施設を、災害拠点病院として急性総合医療センターを有するまでに発展しました。在籍した24年間においても、医療技術、患者数、設備、国家試験合格率などすべて右肩上がりで、2013

年には頼れる病院ランキングで兵庫県1位・全国11位になりました。また、2026年の新病院開院に向けて財政基盤の確立が唱えられる中、病院収支も2019年は約+22.7億円に改善しました(まだ不足しています)。私の役目は何か新しいことをするのではなく、太城元病院長、難波前病院長の方針を引き継いでこの上昇傾向を維持することと思っています。

学生や研修医には知識や技術を習得してEBMに沿った医療(Scienceの部分)と共に、個別化・コミュニケーション・情(Artの部分)を教えてきました。「自分の親だったらどう治療するか考えなさい」とも言ってきました。本学出身者がScienceとArtの両面から優れた医師になることを願っています。

病院長マニフェストの最後の部分「耳鼻咽喉科医局運営の経験から」を書きます。①24年間で100人(本学卒75人)の入局者がありました。②講師以上7人のうち5人が本学卒です。③6つの関連病院部長のうち5人が本学卒です。④学位受領者は43名(本学卒37名)です。⑤各診療科において、優秀な本学卒の者をスタッフとして育成することが教育・研究・診療のみならず経営の面からも重要です。⑥2026年開院の新病院で中心となるのは現在の研修医・レジデントです。若手の頑張りに期待しております。

最後になりましたが、目標達成に向けて日々努力して行く所存ですので、なお一層のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

8. 厚生労働大臣表彰受賞に際して



医療法人社団五色会
理事長 佐藤 仁 (平成3年卒業)

兵庫医大を卒業後地元香川に帰り、医療法人社団五色会の理事長として精神科医療に関わっております。当法人は、こころの医療センター五色台という280床の単科精神科病院、2つの精神科サテライトクリニック、精神障害者に関わる社会復帰施設や就労支援施設、介護施設等を運営しております。私は父の後を継ぎ、2000年より院長に、2007年より現職の理事長となりました。我が国的精神科医療は我々が医師になった約30年前よりかなり進歩し、薬物療法の進歩や、専門療法の充実により、在院期間も短くなり、また入院時の治療環境も驚くほど改善されたように思います。当院も20年前は入院患者のほとんどは長期慢性期の患者さんでその多くは退院することを半ば諦めており、院内でいかに穏やかに過ごすかが目的のような入院生活を送っておられました。早期退院、社会復帰というキャッチフレーズは常に厚労省がいろいろな指針で使用しますが、実際に長期入院患者さんが社会に帰るために超えなければならない様々なハードルがあり、実行することは困難を極めます。

我々の法人がこの20年間行ってきた治療システムの変革もこの高いハードルとの戦いであったような気がします。まず身寄りのない長期入院の患者さんが退院するためには住居が必要です。病院周辺

にグループホームを整備し病院外での生活に慣れてもらい、その後病院より離れた場所にもグループホームを開設し、徐々に病院から離れて生活が送れるための環境を準備し、また日中はその人たちがリハビリに通うための精神科デイケアや就労訓練施設を開設しました。今では百数十名の精神障害者の皆さんのが病院から旅立ち地域で暮らし、当法人のリハビリ施設には250名を超える皆さんのが日々通われております。院内のリハビリ施設内には患者さんが働くカフェ・ブルミエが開店し、昼食時は近隣の皆様が多く訪れます。地域と病院が一体となっているようでその光景を見ると感慨深いのですが、そのような環境は自然にできるものではありません。時に発生するトラブルに我々精神科病院が責任をもって住民の皆さんと対話し、解決方法を検討することは不可欠です。地域に受け入れられるためには医療関係者だけでなく、患者さんの努力も同様に必要です。

精神科救急の分野ではH30年より精神科救急病棟を開設し、24時間、365日精神治療の必要な患者さんを断らない医療を強化しました。

精神医療の分野においてやるべきことは山積しておりますが、厚生労働大臣表彰受賞にあたりこれからも自ら選んだ精神科医の道を精進したいと思います。

9. 国際学会(ISAKOS)での学術賞(John J. Joyce Award)受賞報告



膝関節靭帯についての新たな発見

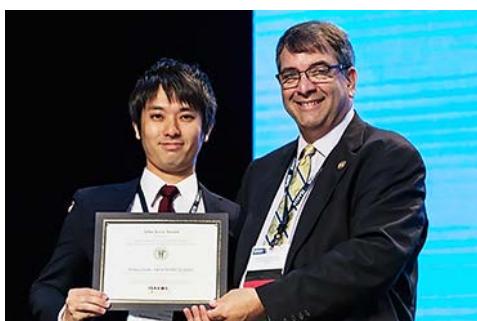
整形外科学

助教 井石智也 (平成21年卒業)

はじめに

緑樹会員の皆様、はじまして、平成21年卒業の整形外科教室 井石智也です。この度2019年5月16日(現地時間15日AM10:00)にメキシコ・カンクンで開催された「Biennial ISAKOS CONGRESS 2019(国際関節鏡・膝外科・スポーツ整形外科学会)」にて「John J. Joyce Award (First place)」を受賞しましたのでご報告させて頂きます。

この学会は2年に1度開催される国際学会で、関節外科医にとっては研究成果や最新の手術法を報告する、最も大きな学会です。なかでも今回受賞させて頂きました賞は約40年続く最も権威のある賞といわれており、First Placeでの受賞は14年ぶり日本人3人目(前回は広島大学整形外科主任教授 安達伸生先生)です。学会開催の半年前に最終候補4名に選出されたという通知が届き、それだけでも身に余る光榮なことだと感じておりました。学会当日はプレゼンテーション、3名の評議員の質疑応答を何とか無事に終わらせて吉報を待ちました。学会現地には吉矢晋一前主任教授と医局員の天井健太先生(平成27年卒)がメキシコまで応援に駆けつけてくれ、最終日の授賞式でFirst Placeで名前を呼ばれることとなり、それは人生最高の瞬間となりました。報告した研究は、2016年8月より2年7ヶ月間、



アメリカのペンシルバニア州ピッツバーグ大学整形外科へ留学していた際に従事していた基礎研究プロジェクトです。膝不安定性に寄与しているとされる膝前外側支持機構は、その組織内に靭帯成分を含むかどうかは未だに解明されておらず、手術加療の対象かどうか議論されています。本研究では小児の屍体膝から同組織を採取して、発生学的靭帯遺伝子転写因子の存在を調査し、靭帯成分への分化するProgenitor細胞がこの組織内には存在しないことを証明しました。臨床に直結する基礎研究であったことが評価されて、今回の受賞に繋がったと思います。

今回は留学先の研究での受賞となりましたが、今後の私の目標は“兵庫医科大学発の基礎研究を用いて、本学から世界に通用する臨床応用、手術応用を創り出すこと”です。今回、このような貴重な経験ができたのは、留学のチャンスを与えてくれた整形外科教室、学生時代から親身に指導してくれた我が母校兵庫医科大学のおかげです。2019年から新教授が就任して新しく生まれ変わる整形外科教室と共に、全身全霊をかけて母校への恩返しとして大学の発展に尽力を努めて参ります。緑樹会の皆様には今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い致します。



10. 緑樹会学術奨励賞



第2回緑樹会学術奨励賞をいただいて

整形外科学

主任教授 橋 俊哉 (平成3年卒業)

この度は栄えある第2回緑樹会学術奨励賞をいただきまして誠に光栄に存じます。緑樹会会长及び選考員会の先生方に深く御礼申し上げます。受賞した論文は「Predictive factors for acute exacerbation of cervical compression myelopathy」という題で、オーストラリア脳神経外科学会のオフィシャルジャーナルであるJournal of Clinical Neuroscience誌に採択されました。この研究は日々の診療の中から生じた疑問から始まりました。私は整形外科の中でも脊椎外科を専門としており、日々脊椎疾患によって麻痺となった方などの手術を担当しております。頸椎症性脊髄症や頸椎後縦靭帯骨化症などで脊髓が慢性的に圧迫されると徐々に手指巧緻運動障害や歩行障害が進行し、進行例には可及的待機的に手術を行います。しかしながら、急に四肢麻痺や歩行障害が増悪し緊急手術を要する急性増悪例を少なからず経験いたします。どういった症例が急性に増悪しやすいかがわかれれば、タイミングを逃すことなく

治療できるのではないかと考えました。そこでその危険因子を急性増悪例と慢性例と比較することで検討しました。すると抽出された危険因子は、高齢、頸椎すべり、1椎間病変でした。よって高齢で変性による頸椎すべりが1椎間のみあってそこで脊髓が圧迫されている症例では現在症状が軽微でも急性に四肢麻痺になることがあります。注意深い経過観察が必要であるということがわかりました。また頸椎すべりという脊椎不安定性が一因であり、これに対しては脊椎固定術が有用であることが示唆されました。さらにそういう症例が四肢麻痺となった場合は自信を持って脊髓症の急性増悪であると診断し緊急の脊椎除圧固定術を行い治療しております。このように研究したことが日々の診療の助けになっています。今後もこのような日々の診療から起った疑問を解決できるような研究を継続し、脊椎脊髄疾患の診断や治療がさらに向上されるように努めて参りたいと存じます。



緑樹会学術奨励賞受賞に際して

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
准教授 都 築 建 三 (平成8年卒業)

平成8年卒業の都築建三と申します。この度は、大変名誉な第2回兵庫医科大学同窓会緑樹会学術奨励賞にご選考いただきまして、誠にありがとうございます。阪上雅史教授・病院長、野口光一教授・学長はじめ、多くの先生方からご指導を賜り、また当科鼻副鼻腔チームの先生方のおかげで、本賞をいただくことができました。大変嬉しく光栄に存じます。同窓会の先生方に心より御礼申し上げます。

私は平成18年から兵庫医科大学に戻り、現在は本学耳鼻咽喉科・頭頸部外科に准教授として在籍しております。大学の3大柱である教育、臨床、研究を向上すべく、医局長、研究管理責任者として鋭意努めております。

さて、今回いただきました奨励賞は、私が専門として従事する鼻科手術に関する研究論文 ‘Tsuzuki K, Hashimoto K, Okazaki K, Sakagami M : Post-operative course prediction during endoscopic sinus surgery in patients with chronic rhinosinusitis. J Laryngol Otol, 132 : 408-417, 2018’ です。慢性副鼻腔炎(chronic rhinosinusitis, CRS)は、鼻症状から睡眠障害やうつ病など様々な心身面に影響を及ぼし、生活の質(QOL)を著しく低下させ、経済的損失にもつながります。このため適切な治療が求められ、保存的治療に抵抗するCRSには手術治療の適応となります。当科の鼻科手術症例(150~200件/年)の中でCRSが最も多い疾患であることから、私共はCRSの手術症例に関する臨床研究を継続してきました。その目的は、術前、術中、術後の状態をリンクして評価した結

果に基づき、早期から臨床経過を予測した治療を行い、治療成績を向上させることにあります。私共はこれまで、術前の副鼻腔炎と嗅覚障害の重症度が有意に相關することを報告しました(Saito T, Tsuzuki K, et al : Auris Nasus Larynx, 43 : 422-428, 2016)。また、術後の鼻副鼻腔領域の内視鏡所見を評価する指標(endoscopic score, Eスコア)を提唱し(Tsuzuki K, et al : Auris Nasus Larynx, 41 : 450-454, 2014)、第23回日本鼻科学会賞をいただきました。これらの成果を基に、CRS患者の術中所見から術後経過を予測する指標(operating score, OPスコア)を提唱しました(本受賞の論文)。このOPスコアにより、術前に副鼻腔炎・嗅覚障害が重度なほど術中に炎症所見が強く、術中に前頭洞排泄路の炎症が強いほど術後再発しやすいことが統計学的に証明されました。これら当科の経験から、CRS患者へ治療前から経過を予測した病状の説明と早期の治療を行い、治療成績の向上を目指しております。

哲学者ニーチェ(1844~1900)の格言の一つに「新発見のみが独創的ではなく、あり当たりなもの、既に古いとみなされて安易に見過ごしてきたものを、いかに新しいものであるかのように見直す眼こそが独創的である。」とあります。私もこれに倣い、日常の臨床でよく遭遇する疑問点こそが新発見の源として追求するよう取り組んでおります。今後もリサーチマインドを持って、本学の発展のために邁進して参る所存です。今後ともよろしくお願い申し上げます。

11. 支部たより

支部会報告(緑丹会)

ささやま医療センター 病院長
緑丹会支部長
片山 覚 (昭和54年卒業)

2018年10月13日(土)に第二回緑丹会支部総会と特別講演会を開催しました。遠いところを多くの方に参加していただき、楽しい時間が過ごせました。講演会の演者はいまや自立支援介護の第一人者として活躍されています森剛士先生でした。「自分の足でしっかりと」をポリシーにしてシンプルな方法で素晴らしい結果を出しておられる、そのお話の内容は驚きと感動そのものでした。森先生についてはこの会報すでにご紹介もあり、皆様もご存知かと思いますが、その取り組みや成果は株式会社ポラリスのホームページに動画などで紹介されていますのでま

だ見ておられない方は是非見ていただきたいと思います。また、篠山キャンパスでは森先生のお申し出も頂いて、ともに自立支援介護を、エビデンスに基づいてさらに展開していくような取り組みを計画しております。森先生よろしくお願ひ申し上げます。

第2回支部会を開催した時は篠山市は、令和とともに丹波篠山市となりました。第3回の支部会は令和元年11月16日に開催予定です。広い兵庫県の六甲山から北を緑丹会がカバーをしており、遠方となる方もありますが、多くの方の参加を心よりお待ちしております。



後列左から 大塚浩之(H12)、田中庸生(S61)、山縣憲一(S61)、栖田道雄(S61)、都筑建三(H8)、高長明律(H8)、岡山明洙(H9)

前列左から 福井辰彦(S57)、長澤進(S55)、森剛士(H8)、石藏礼一(S57)、片山覚(S54)、佐々木健(H8)、武田直久(H8)

第2回緑伊会総会

やまもとクリニック泌尿器科
院長 山本裕信 (平成3年卒業)

平成31年2月23日(土)、伊丹シティホテルにて第2回緑伊会(緑樹会伊丹支部)総会・講演会と懇親会が開催されました。

出席者は須野成夫(S54)、吉村史郎(S54)、林宗茂(S58)、杉澤栄(S61)、青木英治(S63)、山本裕信(H3)、上田順二(H4)、林伸樹(H4)、森本真史(H5)、片岡保朗(H7)、奥村好邦(H8)、吉江秀範(H11)、赤神隆文(H13)、後藤充晴(H14)、富永恒平(H17)、濱田三和男(H22)の各先生(卒業年)、また緑樹会から石藏礼一會長にも参加いただきました。

開会にあたり吉村史郎緑伊会会长からご挨拶があり、総会では緑伊会の現状報告、会計報告がなされました。引き続き講演会に移り、石藏礼一緑樹会会长から緑樹会の活動、兵庫医大の歴史と現在、未来への展望についてお話しいただきました。

した。昭和、平成、令和と元号が移り、教育棟や病院の建て替えを含め兵庫医大のさらなるステップアップが期待される内容でした。

次に須野成夫先生によるご挨拶と乾杯のご発声の後、懇親会に移りました。久しぶりに会った同窓生も多く、学生時代の話に花が咲き賑やかな時間を過ごすことができました。懇親会終了後に記念撮影を行い、一次会は閉宴となりましたが、引き続きホテル内のバーで行われました二次会にも多くの先生方が参加され、さらに懇親を深めることができました。

今回が2回目の開催でしたが、緑樹会本部から多大なご支援をいただきありがとうございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。



後列左から 濱田三和男、富永恒平、後藤充晴、森本真史、吉江秀範、片岡保朗、
中列左から 山本裕信、赤神隆文、林伸樹、上田順二、奥村好邦、
前列左から 青木英治、林宗茂、吉村史郎、石藏礼一、須野成夫、杉澤栄 (敬称略)

岡山緑樹会総会開催報告

川口メディカルクリニック
院長 川口光彦（昭和57年卒業）

第8回岡山緑樹会総会と学術講演会が平成31年3月9日(土)に後楽ホテルにて開催されました。総会にて前年度会計報告、運営状況、会員動向など話し合いされ、すべての議題が承認されました。また、石藏礼一緑樹会会長から、兵庫医大の近況の話をいただきました。旧講義棟などがどんどん建て替えられていく状況に、目をみはるような驚きでした。総会後、川口光彦(S57年卒)が、かかりつけ医としての認知症診療についてミニレクチャーを行なったのち、兵庫医大の同窓生として川崎医科大学消化器外科教授となられました藤原由規先生に特別講演をしていただきました。演題は“消化器がん治療の最新の知見”特に上部消化管の最新医療についてわかりやすくご講演いただきました。岡山緑樹会会員と緑樹会

本部から石藏礼一緑樹会会长、また播磨地区から西川真司先生、広島地区(福山市)から水田玲美先生(H11年卒)にお越しいただき、計12名の先生方にご参加いただきました。

特別講演会のあと懇親会にて有意義な親睦を図ることができました。岡山出身の兵庫医大卒業生も50名以上となり、地方としてはかなりの卒業生を輩出しています。今後岡山出身の卒業生の方々、また近隣の地区の兵庫医大卒の先生方と密に連絡をとり、さらに新たな参加者が増えることを期待したいと思います。今回の開催にて緑樹会本部の方には大変お世話になりました誠にありがとうございました。次回は令和2年3月21日(土)に開催する予定です。これからもご支援いただければ幸いに存じます。



後列左から 石川恵理、西川真司、橋本健二、水田玲美、谷向健、熊澤一真

前列左から 川口光彦、藤原由規、石藏礼一、岡本祐二、中西慶、西垣卓（敬称略）

第14回淡路島緑樹会総会報告

クラモト皮膚科 院長
淡路島支部世話人
倉本 賢 (昭和61年卒業)

平成31年3月16日ホテルニュー淡路にて第14回淡路島緑樹会定時総会が開催されました。淡路島緑樹会の会員数は20名(正会員19名、準会員1名)、本会には7名が参加され、学術講演会には、兵庫医科大学 外科学講座 下部消化管外科 臨床教授 池田正孝先生がお越しくださいました。

総会では今回より会長に柴田亮平先生が選任され、今後の活性化を目指し若手

の会員を世話人につなぎ話すことなどが話し合われました。

総会後は、池田正孝先生から「癌と血栓症～重要性を増すOncocardiologyと静脈血栓閉塞症治療～」のテーマでご講演をいただき最後に活発な討論がありました。

講演後の懇親会では兵庫医科大学卒業生のより深い親睦が出来ました。



後列左から 番田卓也、倉本賢、滝川卓、木村一郎、津本定也

前列左から 柴田亮平、池田正孝、馬詰裕道 (敬称略)

第21回緑西会総会の御報告

医)優会 よしおかクリニック泌尿器科 院長

緑西会代表世話人

吉岡 優 (昭和63年卒業)

第21回緑西会総会を例年通り6月第3土曜日(6/15)煉瓦館で執り行いました。緑西会会員のみならず兵庫医大太城理事長、野口学長、阪上病院長の大学三役、宝塚、川西、伊丹、神戸の各支部と多方面から沢山の先生方に御参加頂き40人とかつてない大盛況な総会となりました。改めて御礼申し上げます。司会進行は私が行い、先ず3月にお亡くなりになった衣笠亨先生に黙祷を捧げた後、次期緑西会実行委員の継続および藤川洋子先生(H.4)の追加就任を承諾して頂き、続いて会計中尾篤先生(H.9)が会計報告を行いました。

続いて講演に移り、石藏礼一緑樹会会长に「緑樹会活動と最近の母校」、阪上雅史病院長に「新病院建設の進歩状況—QOLに配慮した病院をめざして—」をお話し頂きました。

特に緑西会は大学の御膝元西宮市で大学病院とは病診連携を日常的に行っているので収支にはかなり関係しています。

新病院計画や完成時期がずれ込んでいる理由、近隣の病院事情の説明、病院の収支では新患をあと1%増やす事が大切とのお話をしました。

そして特別講演としてH.12年に兵庫医大を卒業された救急災害医学講座主任教授の平田淳一先生に「新しい救命救急センターを目指して」と題して御講演頂きました。先生の目指している救急センターを教えて頂きまた熱く母校愛を語って頂き、力を頂きました。「緑西会会員からの紹介は必ず受けて欲しい」と会場からの生々しい要望も聞いて頂きました。

野口学長の中締めの後、集合写真を撮り、会場を変え懇親会を太城理事長の乾杯挨拶で開始しました。そのあとは各支部から駆けつけて下さった先生方やゲストの先生方にも沢山スピーチを頂き和気藹々楽しく盛況に進み、最後に大江与喜子緑西会終身会長が閉会挨拶で締め、緑西会総会を終えることが出来ました。



第4回宝樹会

梅村耳鼻咽喉科
院長 梅 村 仁 (昭和58年卒業)

2019年6月29日(土)、宝塚ワシントンホテルにて第4回宝樹会(緑樹会宝塚市支部)を開きました。

兵庫医大理事長、太城力良先生をお招きしてお話を伺いました。兵庫医大は、西宮、神戸、篠山にキャンパスをもち、ますます繁栄しているが財政面では決して楽ではなく、経営努力を重ねていかねばならない、ということでした。

その後、緑樹会会長、石藏先生から緑樹会の活動、大学の草創期から現在までの変遷についてスライドをmajie、わかりやすくお話ししていただきました。在学

時代を思い出し、懐かしくもありほろ苦くもありました。

続いて、場所を島家に移し、開宴。久々に会う先輩後輩、研究仲間と話が盛り上がり、近況報告では、ライザップの体験談、職員旅行でのハワイ満喫などみんな楽しそうに過ごしておられるようです。次回、2020年6月最終土曜日に再会を約束しあ開きとなりました。

太城先生、石藏先生、参加してくださった会員の先生方、ありがとうございました。



後列左から 洪基浩、野出美知子、堀賢二、宮本俊明、梅村仁、石本栄作、新海恒一、林崎緑、竹中雅彦
前列左から 石本恭子、大門美智子、石藏礼一、太城力良、大門勝史、竹原満登里、中川知美、三村みどり
(敬称略)

緑樹会奈良支部(緑奈会)

(医)中谷診療所
院長 中谷 真士 (平成3年卒業)

第22回緑奈会総会を令和元年7月27日(土)、大阪市内のスイスホテル南海で開催しました。昨年同様、台風上陸の予報もありましたが、なんとか回避し無事に開催できました。元号が令和になり最初の会で緑樹会会长 石藏礼一先生はじめ17名の先生方に参加して頂きました。

記念講演は兵庫医科大学病院ペインクリニック部教授の高雄由美子先生に「神経障害性疼痛の治療戦略」について、実地医療に即してかつ最新の知見も交えて非常に分かりやすく話していただきました。麻酔科の仕事に始まり、疼痛の伝達経路、脊髄電気刺激療法について、神経障害性疼痛のスクリーニング、ガイドライン、そして薬物療法など興味深く聞かせて頂きました。その後、石藏会長より「兵庫医大の現状と緑樹会の活動」についてお話をありました。大学を離れて20年以上たちますが、建物や周囲の環境の変化に驚くばかりで、一度新しく変わった大学を訪れてみたいと思いました。恒

例の自己紹介では、多彩な趣味の話や体調の変化の事など皆さんに熱く語って頂きました。そしてbingoゲームで盛り上がり、最後に県立奈良医科大学法医学教室名誉教授の羽竹勝彦先生に閉会の挨拶をして頂き、今年も和やかに総会・親睦会を終える事が出来ました。ただ参加人数がやや少なく、メンバーもあまり変わりがないので、奈良県にゆかりのある若い先生方もどんどん参加して頂ければ幸いです。来年度の総会予定日は、東京オリンピックの影響もあり令和2年7月18日(土)です。また、新しく奈良県内でご勤務の先生がおられましたら事務局までご連絡下さい。よろしくお願ひ致します。

【緑奈会事務局】

〒635-0067 大和高田市春日町2-1-60
(医)中谷診療所 中谷 真士
TEL : 0745-52-2166、FAX:0745-22-1491
E-mail : mnakatan@wa2.so-net.ne.jp



後列左から 加藤佳子、中谷真士、小松重幸、福山学、溝上晴久、村尾吉規、佐伯美智子、熊本新一、應田義雄
前列左から 池田晴彦、中井謙之、高尾由美子、石藏礼一、佐竹勝彦、澤田健史、坂上隆 (敬称略)

第4回緑西杯オープンゴルフコンペを終えて

明和病院 放射線科

放射線科医長・IVRセンター長 高田 恵広 (平成11年卒業)

緑西会の企画として、「もっと緑西会を盛り上げる会」の趣旨に賛同していただけの方であれば、兵庫医科大学の卒業生に限らず、どなたでもご参加いただけるようにと緑西杯オープンゴルフコンペを開催して3回目を迎え、令和となり初のコンペを7月19日(日)に有馬ロイヤルゴルフクラブで開催しました。

今回の参加者は38名と多くの方に参加していただき、大変盛大に開催されました。例年よりも梅雨入りが遅く、また、台風5号の接近で天候不良が心配されました。参加者の日ごろの行いのおかげで天候は曇り時々晴れ、雨に降られることなく、プレーを楽しむことができました。

その結果、優勝は権藤延久先生が獲得されました。また、準優勝は清水聖保先生、第3位は堀賢二先生が受賞されています。3名とも平成2年卒の方々でした。受賞されたみなさんおめでとうございます。

最後まで、参加者全員が和やかな雰囲気の中、楽しく過ごすことができ、更に

卒業年度に関わらず親交を深めることができました。ご参加頂いた皆様、ありがとうございました。

次回、第4回の開催は令和2年7月19日(日)、同じ有馬ロイヤルゴルフクラブで開催の予定です(毎年1回・7月の第3週日曜日に継続開催を予定しております。)。

今年5月より年号も変わり、「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という意味が込められた令和となり、花を大きく咲かせることができるよう、緑西会を盛り立てていこうと考えています。

緑西杯はオープンゴルフコンペですので兵庫医科大学の卒業生に限らず、「もっと緑西会を盛り上げる会」にご賛同いただける方ならどなたでも参加いただけます。ベテラン、初心者を問わず親睦を深め、和気あいあいとプレーできればと考えています。皆さん、お誘い合わせのうえ多数のご参加のほどよろしくお願いいいたします。



12. 同期会たより

第13期生同窓会報告

平川クリニック
院長 平川一秀 (平成2年卒業)

平成31年4月20日(土)に、第13期生(平成2年度卒業生)の同窓会を久しぶりに開催しました。なかなか幹事としても同窓会の開催にこぎつけず、日々の診察に追われてあっという間に年月が過ぎてしまい3年? 4年? ぶりの開催となりました。

今回は3回目の同窓会なのですが、学生の勉強の場である教育棟が新しくなりましたので、そちらの6階にある学生食堂で開催いたしました。

昔の床が板の食堂とは違います。非常に綺麗な食堂で色々な料理も出てきました。学生食堂とは思えない料理内容でした。卒業生はぜひここでの同窓会をお勧めいたします。値段もホテルに比べるとお安いですよ。

今回は25名の同窓生に出席していただきました。まず石藏礼一緑樹会会长から大学の変遷を講義していただき、その後食堂での宴会となりました。

各自色々な話になり楽しく過ごした2時間でした。各自の近況報告もいただき、皆さん年相応に落ち着いているなあというのが私の感想です。それにしてもびっくりいたしました。私たちの同級生の子弟が兵庫医大に入学したという話のこと多いこと。兵庫医大愛が溢れているなと思いました。

2次会は当然千穂です。レモンチューハイを飲みながらみんなでワイワイあつという間に楽しい時間が過ぎていきました。

今回で3回目です。初回の時にみんなのメールでメーリングリストを作ってそこからの同窓会の案内をしたのですが、返信が少なかった感じがします。参加人数が少なかったので次回は連絡方法を考えて少しでも多くの同窓生に参加して欲しいと思います。

ではまた3~4年後に!!



「72会」～1972年度入学、ほぼ一期生の同窓会～

医療法人財団 樹徳会 上ヶ原病院
理事長 大江与喜子（昭和53年卒業）

みなさん、どなたかわかりますか？

緑樹会会員どなたかのお父さんやお母さんがいらっしゃるかも…。緑樹会会員どなたかがお世話になった先生などがいらっしゃるかも…。同級生だったのはもう47年前。青かった私たちもすっかり成熟してしまいました。というか、引退したり、世代交代したり、まだまだ発展途上の人もあったり、それぞれ充実した人生を楽しんでいるようです。

1972年に兵庫医大ができたから、今の私たちがある。と母校に感謝しながらも、また今の兵庫医大のカラーを、基礎を、私達先輩が作ってきたんだという自負。数年先には私達を育ってくれた建物は何も無くなるというニュースにノスタルジアではなく、さらなる兵庫医大の発展を見守ろうとそれぞれの立場から意見が飛び交いました。他の学年では、講演会付きだったり、現役の兵庫医大の先生を招いたりと大きく開催している同期会もあるようですが、72会のスタンスはただ集まって喋るだけ。これからもこのスタン

スを踏襲することで全員了承。それぞれの分野で先端を走っている（いた）人も多く、実に中身の濃い会となりました。救急災害医療、地域医療、在宅医療、大学教育、産業医、時期的にもオリンピック、ラグビーW杯を控えてスポーツ医学の話題までも、一つ一つが生講演会、質問も飛び交い時間が足りないくらいでした。

72会は2年に一回の開催です。もっと頻繁にしようという声もありましたが、7月の第2土曜日、次回は2021年7月10日になります。今から予定を入れておいてください。

1972年入学者～実は全員に案内ができなかったかもわかりません。それは万年幹事をやっている私のリサーチ不足ではあります、本稿をご覧になって案内のいってなかった方はメールアドレスを同窓会までお知らせください。卒業年度はわからなくても、入学年度は覚えているでしょう？と思いますので。そして2年ごとに母校の様子を垣間見、次世代に繋げていきましょう。大先輩として…。



13. OB会たより

吉矢ラグビー部部長退職記念祝賀会とOB会

小児科学
助教 下村英毅（平成16年卒業）

平成31年3月17日に吉矢部長(整形外科学教授)の退職記念祝賀会を神戸ベイシェラトンホテル＆タワーズで開催しました。吉矢部長は平成17年4月1日に就任されました。神戸大学ラグビー部OBであったこともあります、就任時に本学OBと神戸大学OBの就任記念試合を行いました。ご多忙の中、頻繁にグラウンドにも足を運んでくださいり、非常に熱心に学生の指導をしてくださいました。退職記念祝賀会では約70名の現役、OBが出席し吉矢部長はじめ現役、OBからのスピーチとして思い出話などを頂き、和やかな雰囲気で楽しいひとときを過ごしました。

また、1週間後の3月24日にはOB戦とアフターマッチファンクションを開催しました。OB戦はカカツカの天然芝のJR西日本鷹取グラウンドを借りて開催しました。例年この時期に同じグラウンドで行っており、天候にも恵まれ今年も素晴らしい快晴のもと行うことができました。OB戦には若手を中心として20人以上のOBとOG(もちろん見学のみです)が参加

し、現役対OBの試合や混成チームでの交流戦など計3試合を行いました。1試合目は現役チーム対若手OBチームで実戦さながらのメンバー構成でした。国家試験を終えた6年生と若手OBチームの混成ですので接戦になります。今年度はOBに軍配が上がりました。2、3試合目はやや年齢が高めのOBを含めたチームと現役チームが戦いました。近年、部員数の減少と、けが人が重なり、足りない現役部員の代わりにOBが現役チームの補充に入るという事態も最近の事情です。試合後には全員で記念撮影を行い、アフターマッチファンクションのために三宮のニューミュンヘン神戸大使館店に移動しました。アフターマッチファンクションには、例年通り現役部員ほぼ全員と、1期生のOBから新卒OBまで幅広く参加しました。食事を楽しみながら現役学生・OBが交流することはラグビー談義だけではなく、お互い医学生と医師の立場で交流できる有意義な時間となりました。



平成31年3月17日 吉矢部長退職記念祝賀会 於 神戸ベイシェラトンホテル＆タワーズ

サッカー部およびサッカー部OB会からのご報告

西宮回生病院
病院長 福 西 成 男 (昭和63年卒業)

サッカー部ではこの度、長きにわたって兵庫医大サッカー部の顧問の労をおとりいただきました耳鼻咽喉科の阪上教授が、大学病院の病院長に就任されるにあたりクラブの顧問を勇退されることになりました。阪上先生はお忙しい中、毎年部員の新入生歓迎コンパ、6年生の追い出しコンパ、OB会総会には必ず出席していただき、またサッカー部が弱かった時代も、全医体で優勝できた年もいつもグランドに足を運んで頂いて部員やOBの士気を高めていただきました。本当にありがとうございました。そして本当にお疲れさまでした。OB会長の津田先生、現役のキャプテンの森本くんとご相談させて頂き、部員およびOB一同の感謝の気持ちと病院長就任のお祝いの気持ちを込めて“感謝の会andお祝いの会”を企画しました。しかし、そこで会に先立って問題が一つ…。じゃあ誰に阪上先生の後任をお願いするの？

阪上先生と相談させていただくなかで最高の選択肢が見つかりました。

新しく2018年より救命救急センター教授に就任されておられる“兵庫医大卒業生の若手教授の旗頭”平田淳一先生がなんとサッカー部のOBでした。(OB会の雑用係として名簿作成にたずさわっている私自身としては今までそこに気付かず猛省しております。)平田先生、これまでOB会のご連絡ができなくて本当に申し訳ありませんでした。

実は平田先生は途中でサッカー部を辞められていて、OB会名簿から漏れてしまっていました。平田先生ご自身は中途でクラブを辞めた私が顧問とは…と当初かなり就任に抵抗?されておられましたが、阪上先生と入れ替わり立ち替わり説得工作?を行い快諾いただきました。何度もお話しさせていただくなかで、かなりのサッカーオタクであることが判明いたしました。平田先生、これから御定年

されるまで兵庫医大サッカー部のことを持ちよろしくお願ひ致します。

ちなみに阪上先生の新入生歓迎コンパでの決まり文句“6年間クラブを辞めずに継続することは、今後医師としての仕事していく中でも非常に重要です！！”というお言葉は使えないで…平田先生、何かいい感じの訓示を考えておいてください。

“感謝の会andお祝いの会”に話を戻しますと4月13日に大学10号館10階のレストランで立食パーティーをOBの先生方、現役学生合同で行いました。ネーミングの“感謝の会andお祝いの会”に加えて平田教授への顧問引継式も同時に盛大に行われました。阪上先生の懐かしいお話し、平田先生の明るいお人柄で非常に楽しい会となり盛り上がりました。阪上先生に現役学生からは花束と名前入りのユニホーム、OBからは花束とサッカーボールがあしらわれたネクタイピンとカウスが贈呈されました。

現役選手の成績は昨年の西医体は残念ながら2回戦敗退になりましたが、今年の春の関西大会は決勝まで進出し関西医大に敗れましたが惜しくも準優勝となっています。またこれから夏の西医体へ向けて頑張っていただきてOB会としては金銭面も含めたバックアップもこれからさらに頑張って行こうと思っています。



バスケットボール部OB総会報告

誠仁会 大久保病院 麻酔科
井 谷 基 (平成14年卒業)

緑樹会会報をご覧の皆様、こんにちは。兵庫医科大学バスケットボール部OB会事務局の井谷と申します。

当OB会の主な年間活動は、日本医師バスケットボール大会に参加する事、OB会報を送付してOB総会を行う事、不定期にゴルフコンペを開催する事です。また毎年OB会費から学生へクラブ活動援助金を支給しています。

医師バスケットボール大会には1994年以来毎回参加しており、複数回の総合優勝経験があるものの、ここ数年は2部(5部まである)に甘んじておりました。しかし昨年2018年は若手OBの活躍で見事1部昇格を果たしました。

OB総会は毎年2月にお馴染みの“千穂”にて行い、現役部員とOB・OGの懇親を深めています。例年OB・OGが10名程度と現役部員・顧問の先生たちで飲み騒ぎ、ほとんどみんなグダグダになりながらOB・OG・現役が自己紹介をして、年間MVPの現役部員にOB会から記念品進呈を行います。

しかし今年2019年のOB総会は違いました。と言いますのは、多くの祝い事が

重なったからです。まずは、OBであり現在顧問でもある、兵庫医科大学整形外科の麿谷博之先生が還暦を迎えるとともに教授に就任されました。更には、元顧問(現名誉顧問)の新家莊平先生が理事長退任と共に叙勲を受章されました。そして最後は、新家先生が長年夢見ておられた全医体出場の悲願を、昨年2018年に現役部員が見事達成してくれたのです。しかも全医体準優勝という好成績で！！

「めでたい事が重なったので祝賀会を行うべき」とOB会会长の山田博先生から発案いただき、2019年6月30日にホテルグランヴィア大阪にて90人を超えるOB総会を、新家先生・麿谷先生をお招きして開催することができました。バスケットボール部創部のメンバーから現役学生まで各世代のOB・OGが集合し、当時の思い出話に花が咲いて非常に楽しい会ができました。

2023年には創部50周年を迎えます。肩肘張らない千穂の“OB総会”も楽しいですが、今回参加できなかった先生方のためにも、また盛大な祝賀会を開催したいと思っています。



2019年6月30日 ホテルグランヴィア大阪20F 凤凰の間に。(筆者前列右端)

第18回 バレーボール部 同窓会開催報告

一般社団法人日本健康倶楽部和田山診療所 診療所長
バレーボール部同窓会事務局
山 口 宏 茂 (平成9年卒業)

令和1年7月27日(土)に、やっこ旅館(甲子園)にて、バレーボール部同窓会(旧OB会)を開催しました。平成5年に発足したバレーボール部同窓会ですが、諸事情もあり、6年ぶりの開催となりました。

参加者は総勢51名(OB/OG22名、学生29名)でした。従来、バレーボール部同窓会は、OB戦、OG戦を行った後、懇親会(総会)開催の流れとなっておりましたが、今回は、長らくバレーボールはおろか、運動もされてない先生方が大半であったこともあり、安全配慮の観点から試合は見送り、懇親会のみの開催といたしました。

まずは、同窓会が6年ぶりの開催になったことのお詫びから行い、この6年間の物故者を報告しました。邱彗先生(平成4年卒業)、森本朋子先生(平成14年卒)の2名が残念ながら、ご逝去されました。心からご冥福をお祈りいたします。

引き続き、昭和49年に創部したバレーボール部の歴史、平成5年に設立したバレーボール部同窓会の歴史を事務局からスライドにて紹介しました。参加されているOB/OGにご意見等を伺いながら説明を進めました。さらに、学生(男子部・女子部)の過去6年間の成績もスライドにて報告。男子部は現在1部リーグに所属し、様々な大会で優勝、準優勝を収めていること、女子部も優勝、準優勝を収めていることを紹介しました。あまりの成績の良さに一同感心をしておりました。



以前は、様々な方法で現役部員に対して、技術面、物資面、金銭面などサポートをしておりましたが、ここ数年、十分なサポートが出来ておりませんでした。今回、久々に同窓会を開催したこと、以前同様、様々なサポートを現役部員に対して行うことを確認いたしました。

最後に、ビッグニュースとして、橋俊哉先生(平成3年卒)が整形外科講座の主任教授就任が同窓会開催前日に正式に決定したことを報告し、参加者全員でお祝いをし、懇親会はお開きとなりました。なお、次年度は令和2年7月の開催を予定しておりますので、何卒よろしくお願ひします。

*なお、事務局の不手際により、一部の先生には通知がいかなかつたことお詫び申し上げます



橋先生の主任教授就任おめでとうございます

■バレーボール部同窓会連絡先
事務局 山口宏茂(やまぐち あつしげ)
Facebook <https://www.facebook.com/vb.hcm>

体育会クラブ対抗ゴルフ大会

桜橋渡辺病院 理事長・病院長

競技スキーパOB

渡辺真一郎（昭和53年卒業）

母校の開学47年が過ぎ、この間に多くの卒業生が世に排出され、そのOB,OGの卒業生は医学会のみならず社会でも活躍、貢献されています。また最近の現役生は偏差値の高い学生が入学して、以前に比べて格段に鈴木副学長（桜橋渡辺病院OB）の熱心な指導により医学教育が充実され、毎年100%に近い医師国家試験合格率を続けています。一方、体育会のクラブでは近年、サッカー部が全医体で優勝して日本一に輝きました！

我々、オールドOB,OG達は母校の評価が大変良くなっているのを誇らしく感じています。しかしながら、卒業生の全体の同窓会、親睦会は少なく、体育会OB,OGの全体の会はなく、寂しく感じていました。そこで約8年前に小生はゴルフ部OB一期生の林孝之君に話しかけ、関学体育会OBゴルフ大会が千刈ゴルフクラブで毎年開催され、これを参考にして母校でもゴルフ大会を開催したいと相談しました。彼は日本ゴルフ協会の競技役員をしていて、国内の競技だけでなく、全英オープンゴルフのレフェリーを務めていて、その場で快諾していただきました。林君の指示で競技ルールが決まり、初年度はゴルフ部OB,OGの先山夫妻が幹事をしていただき、4月の昭和の日の祭日に西宮高原ゴルフクラブで開催していただきました。初年度の大会は多くの体育会OB,OGが大会の趣旨を理解して参加していただき、成功裡に終わりました。この年からゴルフ部が優勝を続けて

いる結果、毎回この会の幹事をお願いしている先山夫妻には大変感謝しています。クラブの中では「打倒！ゴルフ部」を目指して予選会をして、この大会に参加している熱心なクラブもあると聞いています。今年の第7回の大会は集合写真に写っている11組43名の参加がありました。結果は、硬式テニス部がグロス165ストロークと健闘しましたが準優勝に終わり、ゴルフ部はグロス161ストロークで7連覇を達成しました！3位は軟式テニス部、4位はバスケット部、5位はアメリカンフットボール部、6位はサッカー部、7位はスキーパOB、8位は剣道部、9位はラグビー部でした。我がスキーパOBは残念ながら7位でしたが、内海隆生君がNET69ストロークで個人の部で優勝してくれました！

今後も多くの体育会クラブが参加していただき、「打倒！ゴルフ部」を目指して大会を続けていただきたいと思っています。このため、まだ参加していない野球部、柔道部、陸上部、卓球部、アーチェリー部、空手部、ヨット部、山岳部など体育会のOB,OGの皆さんのが参加をお待ちしています。そしてゴルフ競技を通じて懐かしい学生生活で親交のあったOB,OGの親睦を深め、各現役のクラブの学生たちにOB,OG達が兵庫医大体育会の『文武両道で頑張る精神』を伝えてもらいたいと願っています。終わりに、会誌への投稿を依頼していただいた緑樹会の保科幸次編集委員、石藏礼一會長にはお礼を申し上げます。

